

管理栄養学科 シラバス目次

2年前期

配当年次	ページ数	科目名	ナンバリング
2年前期	134	統計学	CN301
1年～4年	138	スポーツ・リクリエーション	CH103
2年通年	140	情報処理演習Ⅱ	CI301
2年前期	148	英会話Ⅰ	CL311
2年前期	152	フランス語Ⅲ	CL301
2年前期	156	中国語Ⅲ	CL302
2年前期	162	公衆衛生学Ⅱ	NU302
2年前期	166	栄養生化学Ⅱ	NM302
2年前期	172	解剖生理学Ⅰ	NM305
2年前期	184	食品学総論Ⅱ	NF302
2年前期	186	食品学各論Ⅰ	NF303
2年前期	200	基礎栄養学Ⅱ	ND302
2年前期	202	栄養学実験	ND303
2年前期	204	応用栄養学Ⅰ	NA301
2年前期	220	栄養教育論Ⅱ	NE302
2年前期	246	給食計画論	NL301
2年前期	284	教育制度論	EF301
2年前期	286	教育心理学	EF302
2年前期	294	教育方法論	EM301
2年～3年	310	学校ボランティア(学外活動)	EV301

統計学 (2単位) (管理栄養学科、食品学科)

開講時期 2年・前期
担当者氏名 伊藤 雅之

◆授業概要

食品や栄養について学ぶ上で統計処理を知っておくことは不可欠であるし、プロとして各種調査、分析を行う際にも統計処理技術は必須である。

当科目では、学生時代はもとより将来においても活用できるように、統計の基礎を十分に修得することを目的とする。グラフや表の作成方法も学習する。

授業の理解度をチェックするために、複数回授業内小テストを実施する。

◆到達目標

1. テーマに応じて必要なデータを特定し収集できる。
2. 収集データに基づいて、目的に応じて適切な統計手法を適用して整理・分析できる。
3. 整理・分析した結果に基づいて、特徴や知見を抽出し説明できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	統計を学ぶにあたって	統計学の全体像とこれを学ぶことのメリットと必要性、授業の進め方を概説する。	予習：身の回りにある数値を調べる(120分)
			復習：統計の利用分野を調べる(120分)
2	データの基礎知識	データ分類における量的データ、質的データとは何かについて概説する。	予習：数字による表現を考える(120分)
			復習：データが整理されている資料を観察する(120分)
3	データの整理方法	データの全体像を表やグラフで表現する方法について紹介する。	予習：収集したデータの表現方法を考える(120分)
			復習：身の回りにある表とグラフの表現を観察する(120分)
4	平均と分散	量的データを対象として、その特徴を表す指標を紹介する。	予習：電卓・PCの使い方を理解しておく(120分)
			復習：数字を使った平均と分散の計算をやり直す(120分)
5	2つの変数間の関係	2つの変数の関係性について、相関関係をみることで概説する。	予習：2つの変数について、関係がある組み合わせを調べる(120分)
			復習：関係がある2つの変数の組み合わせについて、その理由を考察する(120分)
6	変数を説明する	相関関係がある場合、ある変数を他の変数で説明する方法を紹介する。	予習：2つの変数について、関係がある組み合わせを調べる(120分)
			復習：関係がある2つの変数の組み合わせについて、その理由を考察する(120分)
7	多数の変数群の関係	複数の変数群を用いて集約したり分解したりする分析手法を紹介する。	予習：変数群で因果関係があると思われるものを推測する(120分)
			復習：変数群の因果関係について自分なりの解釈を試みる(120分)
8	確率分布とは	事象の起こりやすさを数値で表現する確率と確率分布について概説する。	予習：身の回りにある確率表現を探す(120分)
			復習：身の回りにある確率表現の定義を確認する(120分)
9	正規分布の特性	確率分布の代表例として、正規分布における平均と標準偏差について概説する。	予習：身の回りにある正規分布と思われる例を探す(120分)
			復習：身の回りにある正規分布の平均と標準偏差を計算してみる(120分)
10	アンケートと統計	データ収集における母集団とは何か、サンプルとは何かについて概説する。	予習：アンケート事例を収集する(120分)
			復習：アンケート事例において標本の大きさと母集団を整理してみる(120分)

11	母集団の推計	サンプル平均とサンプル分散の意味。点推定と区間推定について概説する。	予習：アンケート事例を収集する(120 分)
			復習：アンケート事例において母集団を推測してみる(120 分)
12	検定とは	検定の意味と目的、種類、有意水準とは何かについて概説する。	予習：アンケート事例を収集する(120 分)
			復習：アンケート事例において有意水準別の標本の大きさを計算してみる(120 分)
13	2 群の平均値の比較	2 つの変量について、対応のある場合と対応のない場合における平均値の比較方法を紹介する。	予習：2 群の平均値の比較をできそうな事例を想定する(120 分)
			復習：2 群の平均値の比較をすべき事例を探す(120 分)
14	クロス集計	クロス集計における検定とは何かについて概説する。	予習：クロス集計の事例を探す(120 分)
			復習：クロス集計の検定を設計してみる(120 分)
15	まとめ	これまでの学習内容について整理する。	予習：これまでの資料を見返す(120 分)
			復習：これまでの資料を見返し、興味のわいたところを書き出す(120 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
授業で提供するパワーポイント資料を使用する		

◆参考書

書 名	著 者	発行所
大学 4 年間の統計学が 10 時間でざっと学べる	倉田博史	角川文庫
栄養科学シリーズ 基礎統計学 第 2 版	鈴木良雄・廣津信義	講談社
野菜消費の新潮流	伊藤雅之	筑波書房

◆関連科目 情報処理演習

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	50
レポート		実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲			

(補足) 小テストは、授業中に複数回実施する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法 小テストの全体講評について、授業内で公開する。

◆受講上の注意事項及び助言

小テストでは、数値計算をするので、電卓またはスマホの電卓、ノート PC の使用を許可する。
授業におけるパワーポイント資料は紙では配布せず、電子ファイルによる提供とする。

◆オフィスアワー

受付時間：授業終了時

受付場所：学務課

上記で対応できない場合：メール (ito523@star.ocn.ne.jp) で対応。

スポーツ・リクリエーション

(1 単位)

(管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1～4 年・前～後期
担当者氏名 膳法 浩史

◆授業概要

生涯にわたって楽しむことができるスポーツやリクリエーションを身につけると生活が豊かになる。
本講座は、下記の内容を行う。

- ①ウォーキングラリーの体験と提案
- ②チームビルディングイベントの体験と提案

実習は、教室、体育館およびイベント会場で実施する。

◆到達目標

1. リクリエーション活動に積極的に取り組む。
2. スポーツ・リクリエーションイベントの提案ができる。
3. スポーツ・リクリエーションイベントの運営ができる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	ガイダンス	日時は履修登録者に対してメールで連絡を行う	予習 ウォーキングラリーについて調べる (60 分)
			復習 会場までの道順を調べる (30 分)
2	ウォーキングラリー①	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 会場周辺の情報を調べる (30 分)
			復習 わからなかった用語を調べる (60 分)
3	ウォーキングラリー②	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 ルートを確認する (30 分)
			復習 わからなかった用語を調べる (30 分)
4	ウォーキングラリー③	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 参加者のコメントを確認する (30 分)
			復習 わからなかった用語を調べる (60 分)
5	ウォーキングラリー④	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 ルートを復習する (30 分)
			復習 わからなかった用語を調べる (30 分)
6	ウォーキングラリー⑤	ウォーキングラリーイベントを分類し、議論する	予習 ウォーキングラリーの種類を調べる (30 分)
			復習 議論した内容をまとめる (60 分)
7	ウォーキングラリー⑥	東京聖栄大学を会場としたウォーキングラリーイベントを提案する	予習 ウォーキングラリーイベントを考える (60 分)
			復習 提案した内容をまとめる (60 分)
8	チームビルディング①	チームビルディングの基礎	予習 チームビルディングを調べる (60 分)
			復習 用語をまとめる (30 分)
9	チームビルディング②	チームビルディングの種類	予習 チームビルディングの種類を調べる (60 分)
			復習 用語をまとめる (30 分)
10	チームビルディング③	チームビルディングイベントの運営	予習 イベント運営の方法を調べる (60 分)
			復習 イベント運営の心得をまとめる (30 分)
11	チームビルディング④	チームビルディングの提案、議論	予習 新しいチームビルディングを考える (60 分)
			復習 提案内容をまとめる (30 分)
12	チームビルディング⑤	チームビルディングの練習を行う	予習 チームビルディングの方法を確認する (60 分)
			復習 流れを再確認する (30 分)
13	チームビルディング⑥	チームビルディングの練習を行う	予習 担当と流れを確認する (30 分)
			復習 担当と流れを再確認する (60 分)

14	レクリエーションイベント運営①	班に分かれてイベント運営を行う	予習 担当と流れを再確認する (30 分)
			復習 各班の発表内容をまとめる (30 分)
15	レクリエーションイベント運営②	班に分かれてイベント運営を行う	予習 各班のイベントを分類する (30 分)
			復習 各班の発表内容をまとめる (30 分)

※過去のウォーキングラリー： 2023 年度 銀座、2022 年度 神田万世橋、2020 年度 舞浜イクスピアリ

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所

◆参考書

書 名	著 者	発行所

◆関連科目
体育実技

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	
レポート	20	実技 (発表・コミュニケーション)	80
学習に取り組む姿勢・意欲 (補足)			

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

レポートや発表に対して対面、メール、またはMoodleによって、フィードバックを行う。

◆受講上の注意事項及び助言

本実習は、集中授業であるため可能な限り欠席しないよう心掛けること。万が一、欠席する場合は個別に対応を行う。

◆オフィスアワー

受付時間： 毎回の講義終了後

受付場所： 6 号館 2 階体育学研究室

上記で対応できない場合： 質問用の電子メール (zenpou-h@tsc-05. ac. jp) で対応する。

情報処理演習Ⅱ (2単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 2年・前期～後期

担当者氏名 岡本 直也

◆授業概要

情報処理演習Ⅰでは扱わなかった、統計関数を中心とした Excel によるデータ処理・グラフ作成および動画・画像編集を行う。その上で、データの加工に必要であるがパソコンにはインストールされていないソフトウェアを学生自身で入手・利用し、パソコンを最大限活用する方法を学習する。また、コンピュータやネットワークの仕組み、情報モラル、情報セキュリティに関する演習を行う。後期は、前期で学習した動画・画像編集を活用し、PowerPoint を用いた魅力的なスライド作成およびプレゼンテーションを行う。また、授業計画と並行して、MOS 試験（マイクロソフト オフィス スペシャリスト：Word, Excel, PowerPoint 等）対策および Office の知識をレポート作成に活かすための演習を行う。授業は各回、パソコンを用いた演習形式で行われ、一人一人のペースに応じて課題を進める。

◆到達目標

1. Office を活用したデータ処理、レポート・論文作成、プレゼンテーションを行うことができる。
2. 様々なアプリケーションソフトを利用した情報処理・加工ができる。
3. 情報モラル・セキュリティを理解し、正しく安全にコンピュータを活用できる。

◆授業計画（前期）

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	ガイダンス	パスワード変更、Web メール設定確認、MOS 試験概要	予習 「情報システム利用手引き」を読み、学内 LAN の利用ルールを再確認する。(40分) 復習 メール転送設定の確認をする。必要に応じてドメイン指定受信設定を行う。(20分)
2	画像編集	ドローソフト、ペイントソフト、透過処理	予習 ドローソフトとペイントソフトの種類・違いを調べる。(20分) 復習 ソフトウェアの機能と使い方を覚える。(20分)
3	画像編集	ペンタブレットによるイラスト作成、PowerPoint を用いたポスター作成と印刷	予習 イラスト内容を考える。(20分) 復習 左記を実践し、操作方法を覚える。イラストを完成させる。(20分)
4	動画編集	動画撮影、動画の取り込み	予習 動画素材を考える。(20分) 復習 カードリーダーの使い方を覚える。(20分)
5	動画編集	動画形式の変換、タイトル、キャプション、カット、トリミング、回転	予習 動画編集ソフトの種類と機能を調べる。(20分) 復習 動画を編集する。(20分)
6	動画編集	アニメーション、視覚効果、音楽	予習 動画を編集する。(20分) 復習 動画編集方法を覚える。(20分)
7	情報モラル	著作権、個人情報、SNS	予習 配布資料の用語と関連事項を調べる。(20分) 復習 事例・用語・意味を覚える。(40分)
8	情報セキュリティ	マルウェア、ウイルス、トロイの木馬、スパイウェア、不正アクセス、フィッシング詐欺	予習 配布資料の用語と関連事項を調べる。(20分) 復習 事例・用語・意味を覚える。(40分)
9	パソコンの構成と仕組み、ネットワーク	ハードウェア、ソフトウェア	予習 配布資料の用語と関連事項を調べる。(20分) 復習 用語と意味を覚える。(40分)

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
10	パソコンの構成と仕組み、ネットワーク	インターネット、LAN、IP アドレス、ドメイン名	予習 配布資料の用語と関連事項を調べる。(20 分)
			復習 用語と意味を覚える。(40 分)
11	Excel 関数	平均、分散、中央値、最頻値、最大値、最小値、標準偏差、偏差値、相関係数	予習 配布資料により、統計用語と意味を調べる。(20 分)
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。(60 分)
12	データ分析	Excel アドイン、ヒストグラム、F 検定	予習 検定手順を理解する。(20 分)
			復習 検定手順と Excel データ分析ツールの使い方を覚える。(60 分)
13	データ分析	t 検定	予習 検定手順を理解する。(20 分)
			復習 検定手順と Excel データ分析ツールの使い方を覚える。(60 分)
14	データ分析	χ^2 検定	予習 検定手順を理解する。(20 分)
			復習 検定手順と Excel データ分析ツールの使い方を覚える。(60 分)
15	総合演習	e-learning	予習 e-learning による反復学習をする。(40 分)
			復習 e-learning による反復学習をする。(40 分)

◆授業計画（後期）

回	項 目	内 容	予習・復習
1	ガイダンス	PowerPoint の概要と基本操作、伝わる資料作成の法則、ショートカットキー	予習 教科書 p1～42（第1章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。(20 分) 復習 画面構成・リボン・タブの機能を覚える。(40 分)
2	プレゼンテーションの資料作成、デザイン	スライドの作成・移動・削除、箇条書き、テーマ、配色、フォント、ワードアート、プレゼンテーションの保存	予習 教科書 p43～94（第2～3章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。(20 分) 復習 左記を実践し、操作方法を覚える。(30 分)
3	図表・グラフ・写真の挿入	図表・グラフ・写真の挿入、スライドの印刷、SmartArt、Excel グラフの利用、写真のトリミング、スクリーンショット	予習 教科書 p95～156（第4～5章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。(20 分) 復習 左記を実践し、操作方法を覚える。(30 分)
4	動画・音楽の挿入、アニメーションの設定	ビデオの挿入・トリミング、オーディオの挿入、アニメーション、画面切り替え	予習 教科書 p157～186（第6～7章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。(20 分) 復習 左記を実践し、操作方法を覚える。(30 分)
5	スライドショーの実行	スライドショーの準備と実行、発表者ツール	予習 教科書 p187～218（第8章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。(20 分) 復習 左記を実践し、操作方法を覚える。(30 分)
6	スライドマスター、クラウドで使いこなす、	スライドマスターの修正、ヘッダー、フッター、クラウドの仕組み、OneDrive に保存、モバイルアプリ、PowerPoint Online、共有の設定、	予習 教科書 p219～258（第9～10章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。(20 分) 復習 左記を実践し、操作方法を覚える。(30 分)
7	配布資料の作成、オリジナルテンプレート、タブ・リボンのカスタマイズ	配布資料・発表者用資料の作成、PDF 形式で保存、オリジナルテンプレートの作成・保存、タブ・リボンのカスタマイズ	予習 教科書 p259～311（第11～12章、付録）の手順および HINT・POINT 等を理解する。(20 分) 復習 オリジナルテンプレートを作成する。(30 分)
8	プレゼンテーション資料の準備	資料収集、Web ページの引用と転載、著作権、フリー素材	予習 プレゼンテーションのテーマを決める。(30 分) 復習 参考資料を収集する。(30 分)
9	プレゼンテーション資料の準備	画像編集	予習 写真・イラストを用意する。(60 分) 復習 画像を完成させる。(20 分)
10	プレゼンテーション資料の準備	動画編集	予習 動画素材を用意する。(60 分) 復習 動画を完成させる。(20 分)
11	プレゼンテーション	各自のテーマでスライドを作成	予習 教科書の HINT・POINT・テクニックを理解する。(30 分) 復習 スライドを編集する。(30 分)
12	プレゼンテーション	スライド編集	予習 スライドを編集する。(30 分) 復習 スライドを編集する。(30 分)
13	プレゼンテーション	アニメーション、ノートの作成	予習 スライドを編集する。(30 分) 復習 スライドを完成させる。(30 分)
14	プレゼンテーション	発表者ツール、リハーサル、タイミング	予習 発表者ツールの機能を調べる。(20 分) 復習 スライド作成から発表までの手順を理解する。(40 分)
15	総合演習	e-learning	予習 e-learning による反復学習をする。(40 分) 復習 e-learning による反復学習をする。(40 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
できる PowerPoint 2019	井上香緒里, できるシリーズ編集部	インプレス

◆参考書

書 名	著 者	発行所

◆関連科目

情報処理演習 I

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト	
レポート	30	実技 (発表・コミュニケーション)	30
学習に取り組む姿勢・意欲			

(補足)

- ・ 前後期各 15 回の授業すべてに遅刻をせず出席し、他の受講者の学習環境に配慮しつつ、堅実に取り組むことを前提として、「成績評価の方法・基準」により評価する。
- ・ 定期試験は、授業内で扱った問題から出題され、パソコンを用いた実技および筆記試験を併用して行う。
- ・ 資格試験に合格することにより、定期試験の結果に加点される。
- ・ 「実技」は、パソコン操作 (ショートカットキー、タイピング、受講態度等)、小テストにより評価する。小テスト (筆記・e-learning) は不定期に複数回行う。
- ・ 授業内で作成する課題を「レポート」点として評価する。成果物の完成度のみならず、作成過程 (予習・復習をした上で効率よく作成できるか等) を重視する。
- ・ ICT 授業支援システムを用いて、授業の理解度把握および質問受付を行う。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

課題ファイルに修正が必要な場合は、学生個別に解決策を提示し、再提出を求める。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・ 演習は、学生ファイルサーバー (学生共通¥全学年学生共通¥情報処理演習 2025) のシラバスにしたがって進める。
- ・ 第 1 回授業で質問用の電子メールアドレスを周知する。
(学生 SharePoint ⇒ 10. 講義資料 ⇒ 情報処理演習 (岡本) ⇒ 連絡先メールアドレス・授業システム QR コード一覧)

◆オフィスアワー

受付時間：月～木曜日、16：10～17：00

受付場所：情報処理研究室

上記で対応できない場合：電子メールで質問を受け付ける。(曜日・時間は問わない)

英会話 I (1 単位) (管理栄養学科)

開講時期 2 年・前期
担当者氏名 植芝 牧

◆授業概要

英語を話すためには英語への苦手意識を取り去り、英語でコミュニケーションをとる楽しさを体験するのが近道である。そのため難解な専門用語や長文を避けて、日常的な語彙力、英文法の理解、英語運用能力に特化して鍛錬する。希望者は無料でオンライン英会話のレッスンが受けられる。授業の 15 回目にモデル英会話を暗唱してクラスの前で発表する。

◆到達目標

1. 日常英会話を聴き、理解できる。
2. 日常レベルの英会話を話すことができる。
3. TOEIC の Listening Part で 50% 得点できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	ディプロマポリシーとの関係を説明。 Unit 1 Introduction	英語で自分の学生証を作る。写真と語句を結ぶ。Conversation Model をペアで練習。	予習 Preparation の A, B, C, D をやる。(30 分)
			復習 Preparation の A, B, C, D をやり直す。(30 分)
2	Unit 1 Expanded Conversation, Short Talk	クラスメートに英語で質問し、内容を聴きながら学生証を作成する。	予習 Short Talk を自分で言う練習。(30 分)
			復習 再度 Short Talk を自分で言う練習。(30 分)
3	Unit 2 Daily Life	日常生活についての写真と語句を結ぶ。Conversation Model をペアで練習。	予習 Preparation の A, B, C, をやる。(30 分)
			復習 Preparation の A, B, C, をやり直す。(30 分)
4	Unit 2 Expanded Conversation, Short Talk	自分の 1 週間のスケジュールを英語で説明する。	予習 Short Talk を自分で言う練習。(30 分)
			復習 再度 Short Talk を自分で言う練習。(30 分)
5	Unit 3 Weekend Events	週末のイベントについてパートナーに英語で話す。	予習 Preparation の A, B, C, をやる。(30 分)
			復習 再度 Preparation の A, B, C, をやる。(30 分)
6	Unit 3 Expanded Conversation, Short Talk	週末のイベントについて写真と音声を結ぶ。Unit 1~3 の復習。	予習 Short Talk を自分で言う練習。(30 分)
			復習 再度 Short Talk を自分で言う練習。(30 分)
7	Unit 4 Small Talk	ちょっとした雑談をペアで英会話する。	予習 Preparation の A, B, C, をやる。(30 分)
			復習 再度 Preparation の A, B, C, をやる。(30 分)
8	映画鑑賞	手ごろな名作映画を英語字幕で鑑賞する。	予習 映画の脚本を英語で読む (30 分)
			復習 再度映画の脚本を英語で読む (30 分)
9	Unit 4 Expanded Conversation, Short Talk	アルバイトについて英語で語ってみる。	予習 Short Talk を自分で言う練習。(30 分)
			復習 再度 Short Talk を自分で言う練習。(30 分)
10	Unit 5 Likes and Dislikes	日常生活における好きな活動を表現する。	予習 Preparation の A, B, C, をやる。(30 分)
			復習 再度 Preparation の A, B, C, をやる。(30 分)
11	Unit 5 Expanded Conversation, Short Talk	毎週日曜日の午前中にやる活動を表現する。	予習 Short Talk を自分で言う練習。(30 分)
			復習 再度 Short Talk を自分で言う練習。(30 分)
12	Unit 6 Student Life	キャンパス生活の日常を表現する。	予習 Preparation の A, B, C, をやる。(30 分)
			復習 再度 Preparation の A, B, C, をやる。(30 分)
13	Unit 6 Expanded Conversation, Short Talk	キャンパス内の施設の立地を具体的に説明する。モデル英会話の配布	予習 Short Talk を自分で言う練習。(30 分)
			復習 再度 Short Talk を自分で言う練習。モデル英会話の練習 (30 分)

14	Unit 7 Family モデル英会話の練習	自分の家族の外見的特徴を表現する練習。 ペアを決めてのモデル英会話の実演練習	予習	モデル英会話の練習 (30 分)
			復習	モデル英会話の練習 (30 分)
15	モデル英会話の実技テスト	ペアで課題として与えられたモデル英会話をクラス全員の前でプレゼンする。	予習	モデル英会話の練習 (30 分)
			復習	モデル英会話の練習 (30 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
Free Talking	Adam Gyenes 他	センゲージラーニング

◆参考書

書 名	著 者	発行所
英語耳	松澤 好喜	アスキー・メディアワークス

◆関連科目

英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト	
レポート		実技 (発表・コミュニケーション)	50
学習に取り組む姿勢・意欲 (補足)	10		

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

期末テストなどは後期の最初の授業に返却する。実技テストはその場で評価を伝える。

◆受講上の注意事項及び助言

英会話は日常的に繰り返し練習しないと上達しない。オンライン英会話のレッスンを無料で受けられるように設定するので利用すること。

◆オフィスアワー

受付時間： 木曜日 14:00～17:00

受付場所： 4 号館 4 階 英語研究室

上記で対応できない場合： 別の時間帯を Email で予約

フランス語Ⅲ

(1 単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 2 年・前期
担当者氏名 松浦 寛

◆授業概要

フランス語Ⅱの内容を踏まえて、さらに発展的な学習を目指します。授業のやり方等は、前期と同じです。予習・復習を習慣づけ、フランス語検定試験を受けられるよう対策を講じたいと思います。

◆到達目標

1. 初見のフランス語をすべて発音できるようにする。
2. 初歩的な会話のやりとりができるようにする。
3. 実用フランス語検定試験 4 級に合格できるようにする。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	1 年次の復習	初級文法のまとめ	予習 1 年の学習のまとめ
			復習 30 分 1 年の学習のまとめ
2	シャルル・ド・ゴール空港に到着	スーツケースを取りに行く	予習 pp.38-41 30 分 指示形容詞
			復習 復習 30 分 人称代名詞強勢形
3	同上	同上	予習 同上 30 分 所有形容詞
			復習 30 分 形容詞の比較級
4	パリの外にも行きたい	オルセー美術館で	予習 pp.42-45 30 分
			復習 30 分 主語人称代名詞
5	同上	同上	予習 30 分 国名とその形容形
			復習 30 分 職業名、曜日名、月名
6	明日は何をするの？	カフェバーで	予習 pp.46-49 30 分 近接未来と近接過去
			復習 30 分 疑問代名詞
7	同上	同上	予習 同上 30 分 不規則動詞 faire の用法
			復習 30 分 時を表す前置詞
8	朝早く出発しなければなりません	鎌倉について話す	予習 pp.50-53 30 分
			復習 30 分 疑問形容詞
9	同上	同上	予習 同上 30 分 自国や天候の日常表現
			復習 30 分 不規則動詞 devoir, connaître 等
10	ケンが私を初詣に連れて行ってくれます	初詣の待ち合わせ	予習 pp.54-57 30 分 目的語代名詞
			復習 30 分 代名動詞 se lever
11	同上	同上	予習 同上 30 分 複合過去の用法
			復習 30 分 過去分詞の作り方
12	荷造りはもう済んだの？	ジュリーの家で	予習 pp.58-61 30 分 複合過去の否定文
			復習 30 分 複合過去の疑問文
13	同上	同上	予習 同上 30 分 形容詞の最上級
			復習 30 分 副詞の最上級
14	まとめ 1	前期の復習	予習 プリント なし
			復習 30 分 前期のまとめ
15	まとめ 2	同上	予習 プリント なし
			復習 30 分 前期のまとめ

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
ケンとジュリー (二訂版)	太原孝英 他	駿河台出版社

◆参考書

書 名	著 者	発行所
プチ・ロワイヤル仏和辞典	倉方秀憲	旺文社
PC 版・iphone・ipad 版もある		

◆関連科目

なし。

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト	10
レポート	10	実技 (発表・コミュニケーション)	30
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足) 実践的な科目なので、試験とともに出欠を重視する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

ノート提出後、内容をチェックし返却する。

◆受講上の注意事項及び助言

科目の性質上、遅刻や欠席は極力避けたい。成績評価は、出欠状況を重視する。辞書は、上記紹介のもの以外でもかまわないが、2 年次も使用する可能性があるので、各自で購入の上、必ず持参すること。

【辞書を持参しない者は受講できない】

◆オフィスアワー

受付時間：質問は、授業時に示す E-mail にて受け付ける。

中国語Ⅲ (1単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 2年・前期

担当者氏名 陳 揚慈

◆授業概要

1. この授業が目指すのは中国語の習得だけではなく、中国の社会事情、経済発展および独特な文化など、中国への全般的理解を深めながら、中国語の読解力、聴解力および作文力を磨いていく。
2. 受講者の発音の正しさを重視し、中国語でのコミュニケーション能力を確実に向上する。
3. 中国文化を理解しながら、中国式的思考方法、表現方法に慣れることを目指し、中国語らしい表現力を養っていく。

◆到達目標

1. 中国語の語彙を増やし、さまざまな中国語の言いまわしを覚え、実践的な練習を通して、ピンインのついた中国語の文章を基本的に正しい発音で朗読できる。
2. 授業で習った単語や文型をしっかりと把握する。さらに、それを応用に移し、日常的な会話ができる。
3. 中国文化への理解や日本と中国の文化を比較する視点ができる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	①授業方針 ②復習 (名前などの確認)	①授業方針、内容のガイダンス ②単語と基本文型の復習、名前の音読	予習 1年で学習した単語を読んでおく (60分)
			復習 自分の名前の言い方を読んでおく (60分)
2	①第6課の文法Ⅰ ②決まり文句 (挨拶)	第6課 「完了」を表す助詞“了” (自動詞の完了、他動詞の完了)	予習 第6課の単語を読んでおく (60分)
			復習 “了”1の文法を復習しておく (60分)
3	①第6課の文法Ⅱ ②決まり文句	①第6課 「完了」を表す助詞“了” (連動修飾語、否定、疑問) ②決まり文句 1～8	予習 第6課の文法Ⅱの例文を読んでおく (60分)
			復習 決まり文句1～8の音読を練習する (60分)
4	①第6課の本文 ②決まり文句	①第6課の本文の解説と練習問題 ②決まり文句1～8 (発音の確認)	予習 第6課の練習問題を書いておく (60分)
			復習 決まり文句1～8を繰り返し読んでおく (60分)
5	①第6課の会話 ②決まり文句	①第6課の会話をペアで練習を行う ②決まり文句1～8の暗誦	予習 第6課の会話を読んでおく (60分)
			復習 第6課の復習を行う (60分)
6	①第7課の文法Ⅰ ②決まり文句	①第7課 助詞“过”、“着” ②決まり文句9～16	予習 第7課の単語を読んでおく (60分)
			復習 決まり文句9～16練習しておく (60分)
7	①第7課の文法Ⅱ ②決まり文句	①第7課 進行形・命令・依頼 ②決まり文句9～16 (発音の確認)	予習 第7課の文法の例文を読んでおく (60分)
			復習 第7課の文法を復習しておく (60分)
8	①第7課の本文 ②決まり文句	①第7課の本文の解説と練習問題 ②決まり文句9～16の暗誦	予習 第7課の練習問題を書いておく (60分)
			復習 第7課の本文を確認しておく (60分)
9	①第7課の会話 ②決まり文句	①第7課の会話をペアで練習を行う ②決まり文句17～20	予習 第7課の会話を読んでおく (60分)
			復習 決まり文句17～20練習しておく (60分)
10	①第6、7課のまとめ ②決まり文句	①第6、7課の復習 ②決まり文句17～20 (発音の確認)	予習 第6、7課の復習をしておく (60分)
			復習 決まり文句17～20を繰り返し読んでおく (60分)
11	①第8課の文法Ⅰ ②決まり文句	①第8課 助動詞 (可能・能力・願望) ②決まり文句17～20の暗誦	予習 第8課の単語を読んでおく (60分)
			復習 第8課の文法1を復習しておく (60分)

12	①第8課の文法Ⅱ ②決まり文句	①第8課 助動詞（連用修飾語・否定・疑問） ②決まり文句（レベルチェック）	予習 第8課の文法Ⅱを読んでおく（60分）
			復習 第8課の文法Ⅱを復習しておく（60分）
13	①第8課の本文 ②決まり文句	①第8課の本文の解説と練習問題 ②決まり文句1～20の応用Ⅰ	予習 第8課の練習問題を書いておく（60分）
			復習 決まり文句1～20の応用Ⅰを復習する（60分）
14	①第8課の会話 ②決まり文句	①第8課の会話をペアで練習を行う ②決まり文句1～20の応用Ⅱ	予習 総復習のプリントを確認する。（60分）
			復習 決まり文句（読めないところを繰り返して読んでおく）（60分）
15	前期のまとめ	①第6課～第8課の総復習を行う ②今まで学んだ内容をチェックする	予習 第6課～第8課の練習問題を復習する。（60分）
			復習 総復習のプリントを再確認する（60分）

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
ぐんぐんのびる中国語 1 —構文で学ぶ初級中国語—	何 珍時	朝日出版社

◆参考書

書 名	著 者	発行所

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（％）	評価項目	評価比率（％）
定期試験	40	小テスト	20
レポート	0	実技（発表・コミュニケーション）	20
学習に取り組む姿勢・意欲 （補足）	20		

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

小テスト：前の週に通知、試験後解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

配布された内容を有効に利用し、毎回の授業の内容を予習、復習することが大事である。60時間以上の授業外学修を行うこと。

◆オフィスアワー

受付時間： 授業終了後に対応します。

受付場所： 学務課

上記で対応できない場合：学務課に相談して下さい

公衆衛生学Ⅱ (2単位) (管理栄養学科)

開講時期 2年 前期
担当者氏名 倉橋 俊至

◆授業概要

総論である公衆衛生学Ⅰの内容を踏まえて、公衆衛生学の実務に直結する各論部分を概説する。栄養学は医学知識に裏打ちされることにより理解が深まり、栄養士の実務は公衆衛生を学ぶことによってさらに効果的に保健栄養活動を行うことができる。健康づくりの現場では、管理栄養士が健康活動の主導的立場となることが多く、健康に関する知識と技術は実務上必須の要件となる。国家試験に合格するレベルの公衆衛生学の知識習得に留まらず、将来の実務に活かせる知識と技術を修得することをめざす。また、行政職等となる場合には健康づくり担当を担える知識技量を修得することを考慮する。

授業は基本的に指定教科書に沿って講義形式で行い、必要に応じて補足資料を使用する。評価のため、定期テストに加えて確認テストを随時実施し、レポート提出を求める。その結果等を総合的に評価する。

◆到達目標

1. 公衆衛生の各分野において課題となる事項について理解し、問題点や対策について説明できる。
2. 環境保健の主要な要因について現状と課題および対策について理解しかつ説明できる。
3. 地域保健の考え方、保健衛生関連の法令とそれに基づく行政組織や地域保健のしくみについて理解し、現状と課題について説明できる。
4. 母子保健、学校保健、産業保健、老人保健、精神保健の各分野について、法令や仕組みを理解し、現状と課題について説明できる。
5. 保健と福祉の連携について、また、国際保健について現状と課題を理解しかつ説明できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	環境保健(1) 人間の環境 環境把握・評価、環境要因	人間の環境の相互作用、生態系、環境保全、地球規模の環境について概説し、環境衛生の基本概念について理解する。	予習：生態系等の環境衛生基本概念の事前学習 (60分)
			復習：環境衛生の基本概念の要点まとめ (60分)
2	環境保健(2) 物理的および 化学的・生物学的環境要因	環境保健の基本的な物理的要因、化学的要因、生物学的要因について概説する。	予習：基本的環境要因等の事前学習 (60分)
			復習：各環境要因・対策等の要点まとめ (60分)
3	環境保健(3) 空気、衛生 水の衛生 廃棄物	気候、季節、空気、温熱上水道と下水道、廃棄物処理、鼠・衛生害虫について概説し、空気、水や土壌等の環境衛生について理解する。	予習：大気・水・土壌等の環境衛生の事前学習 (60分)
			復習：環境衛生一般の要点まとめ (60分)
4	環境保健(4) 衣食住の衛生 食品と健康、公害と環境	食品と健康、食品衛生、環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染)、公害について概説し、食品衛生や公害について理解する。	予習：食品衛生と公害等の重要事項の事前学習 (60分)
			復習：食品衛生・公害についての要点まとめ (60分)
5	環境保健(5) 環境管理の 方法と対策 国内・国際的取組	環境管理の方法と考え方、国際的および国内の環境管理の取り組みについて概説し、国内外の環境管理について理解する。	予習：環境管理の国際的課題の事前学習 (60分)
			復習：国内外の環境問題と対策の要点まとめ (60分)
6	地域保健と保健行政	自治体、医療、保健所・保健センター、健康危機管理、地域保健法等について概説し、地域保健について理解する。	予習：地域保健の重要事項の事前学習 (60分)
			復習：地域保健法と保健医療体制の要点まとめ (60分)
7	母子保健	母子保健法と母子保健事業、母子手帳、乳幼児健康診査、健やか親子21等について概説し、母子保健について理解する。	予習：母子保健の重要事項の事前学習 (60分)
			復習：母子保健法と健やか親子21の要点まとめ (60分)
8	学校保健	学校保健概要、学校保健従事者、栄養教諭、学校保健統計、学校保健安全法について概説し、学校保健について理解する。	予習：学校保健の重要事項の事前学習 (60分)
			復習：学校保健と学校保健体制の要点まとめ (60分)
9	産業保健(1) 基本概念 労働災害 職業病	労働災害、産業保健従事者、労働安全衛生法等について概説し、産業保健の基本概念とその制度について理解する。	予習：産業保健の基本概念の事前学習 (60分)
			復習：産業保健の基本概念の要点まとめ (60分)
10	産業保健(2) 職業性疾患 の予防 職場における健康	作業環境と健康、職業と健康障害について概説し、職業性疾患とその予防、職場復帰等について理解する。	予習：職業性疾患の重要事項の事前学習 (60分)
			復習：職業性疾患とその予防の要点まとめ (60分)

11	高齢者の保健・医療・介護 特定健診・特定保健指導	老化と加齢、フレイル、高齢者の保健と医療、認知症、介護保険、介護予防等について概説し、高齢者保健・医療・福祉制度を理解する。	予習：高齢者保健の重要事項の事前学習（60分）
			復習：高齢者保健・特定健診の要点まとめ（60分）
12	精神保健	気分障害、統合失調症、神経症性障害、薬物依存、自殺、不慮の事故等について概説し、精神保健福祉について理解する。	予習：精神保健福祉の重要事項の事前学習（60分）
			復習：精神保健福祉の要点まとめ（60分）
13	国際保健医療	国際協力、WHO、FAO、UNICEF 等について概説し、保健医療福祉と国際保健について理解する。	予習：国際保健のしくみと現状の事前学習（60分）
			復習：国際保健の要点まとめ（60分）
14	保健医療福祉の制度と法規	社会保障と社会福祉、障害者福祉、在宅ケア、訪問看護等について概説し、保健医療福祉関係法令について理解する。	予習：保健医療福祉制度の重要事項の事前学習（60分）
			復習：保健医療福祉関係法令策等の要点まとめ（60分）
15	まとめ	公衆衛生学の総まとめ	予習：公衆衛生学の総まとめ自己学習（60分）
			復習：公衆衛生学の要点総まとめ（60分）

（補足事項）授業内容を通して興味を持った重要課題についてレポートの提出を求める。詳細については講義の中で示す。予習・復習については、毎回、教科書の講義範囲を読み、必要に応じて参考書等を参照して重要事項の事前学習および追加・確認学習をすることが学習内容の定着に効果的である。

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
シンプル衛生公衆衛生学-最新版	監修：小山洋 編集：辻一郎、上島通浩	南江堂

◆参考書

書名	著者	発行所
国民衛生の動向-最新版	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会

◆関連科目

公衆衛生学Ⅰ（総論）の履修が必須である。解剖病理、基礎統計学を履修していることが望ましい。

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（％）	評価項目	評価比率（％）
定期試験	60	小テスト（確認テスト）	（補足参照）
レポート	30	実技（発表・コミュニケーション）	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

（補足）「学習に取り組む姿勢・意欲」は、授業内の発言、態度等で評価する。小テスト（確認テスト）を実施する場合は、小テストの正答率では評価せず、取り組み状況を「学習に取り組む姿勢・意欲」として総合的に評価する。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

必要に応じて講義時間内で対応する。個別対応が必要な場合は、原則として学務課を通じて対応する。小テスト（確認テスト）等を実施した場合は、授業内で解答例を示すなどして解説する。

◆受講上の注意事項及び助言

教科書およびノートを用意し受講すること。私語は慎むこと。

◆オフィスアワー

受付時間： 出講日は講義終了後、随時対応する。

受付場所： 直接来室で対応する。不在の場合は学務課へ連絡する。

上記で対応できない場合： 学務課を経由して文書等にて連絡のこと。対応可能な日時を指定して対応する。メール等での連絡も可。

栄養生化学 II

(2 単位) (管理栄養学科)

開講時期 2 年・前期
担当者氏名 福田 亨

◆授業概要

栄養生化学 I では細胞構成成分の化学的特徴と、物質代謝に必須な酵素、ビタミン、ミネラルおよび糖質・脂質代謝を解説した。本科目では引き続き各物質代謝を学ぶとともに、各代謝系の関連性および遺伝子発現、個体の恒常性維持、免疫機構について解説を行う。

◆到達目標

1. 体内における物質代謝、ホルモン作用および免疫機構について理解することができる
2. 栄養学を理解するための基本知識を身につけることができる
3. 国家試験「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」分野の生化学の出題基準に準ずる内容を理解することができる

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	タンパク質の分解とアミノ酸代謝 1	タンパク質の分解とアミノ酸プール アミノ酸炭素成分の代謝 アミノ酸窒素成分の代謝	予習 予習 教科書 p. 142～149 を読み、不明な箇所をチェックする (60 分)
			復習 教科書・配布プリントを参考に生化学ノートの該当箇所を完成させる (100 分)
2	タンパク質の分解とアミノ酸代謝 2	アミノ酸から合成される生体物質 アミノ酸の代謝異常	予習 予習 教科書 p. 149～156 を読み、不明な箇所をチェックする (60 分)
			復習 教科書・配布プリントを参考に生化学ノートの該当箇所を完成させる (100 分)
3	生体エネルギー学	高エネルギーリン酸化合物 生体酸化 呼吸鎖と酸化的リン酸化	予習 予習 教科書 p. 157～164 を読み、不明な箇所をチェックする (60 分)
			復習 教科書・配布プリントを参考に生化学ノートの該当箇所を完成させる (100 分)
4	糖代謝・まとめ	糖質代謝・全般	予習 予習 教科書 p. 100～123 を読み、不明な箇所をチェックする (60 分)
			復習 教科書・配布プリントを参考に生化学ノートの該当箇所を完成させる (100 分)
5	脂質代謝・まとめ	脂質代謝と・全般	予習 予習 教科書 p. 124～139 を読み、不明な箇所をチェックする (60 分)
			復習 教科書・配布プリントを参考に生化学ノートの該当箇所を完成させる (100 分)
6	中間代謝の概要 2	糖質代謝とアミノ酸代謝	予習 予習 教科書 p. 166～171 を読み、不明な箇所をチェックする (60 分)
			復習 教科書・配布プリントを参考に生化学ノートの該当箇所を完成させる (100 分)
7	中間代謝の概要 2	糖質代謝とアミノ酸代謝	予習 予習 教科書 p. 172～179 を読み、不明な箇所をチェックする (60 分)
			復習 教科書・配布プリントを参考に生化学ノートの該当箇所を完成させる (100 分)
8	中間試験	糖質代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝および	予習 教科書 p. 100～156 および授業時に配布したプリントを活用して試験範囲の内容を整理する。(240 分)
			復習 教科書、配布プリントを参考に試験問題の解き直しを行い、苦手箇所のまとめを行う (140 分)
9	ヌクレオチドの代謝	プリン・ピリミジン・デオキシヌクレオチドの生合成 核酸の分解	予習 予習 教科書 p. 180～190 を読み、不明な箇所をチェックする (60 分)
			復習 教科書・配布プリントを参考に生化学ノートの該当箇所を完成させる (100 分)
10	遺伝子発現とその制御 1	生命の基本原理 核酸の合成 タンパク質合成	予習 予習 教科書 p. 191～195 を読み、不明な箇所をチェックする (60 分)
			復習 教科書・配布プリントを参考に生化学ノートの該当箇所を完成させる (100 分)
11	遺伝子発現とその制御 2	遺伝子発現の調節 DNA の損傷と修復 遺伝子工学	予習 予習 教科書 p. 196～213 を読み、不明な箇所をチェックする (60 分)
			復習 教科書・配布プリントを参考に生化学ノートの該当箇所を完成させる (100 分)
12	個体の調節機構とホメオスタシス 1	情報伝達の機序と役割 情報伝達物質と細胞応答	予習 予習 教科書 p. 214～219 を読み、不明な箇所をチェックする (60 分)
			復習 教科書・配布プリントを参考に生化学ノートの該当箇所を完成させる (100 分)
13	個体の調節機構とホメオスタシス 2	ホルモンと生体調節	予習 予習 教科書 p. 219～229 を読み、不明な箇所をチェックする (60 分)
			復習 教科書・配布プリントを参考に生化学ノートの該当箇所を完成させる (100 分)
14	生体防御機構 1	免疫機構とその特徴	予習 予習 教科書 p. 230～237 を読み、不明な箇所をチェックする (60 分)
			復習 教科書・配布プリントを参考に生化学ノートの該当箇所を完成させる (100 分)

15	生体防御機構 2	アレルギー 自己免疫疾患と免疫不全	予習 予習 教科書 p. 237～242 を読み、不明な箇所をチェックする (60 分)
			復習 教科書・配布プリントを参考に生化学ノート の該当箇所を完成させる (100 分)

*各項目終了時に授業で行った「まとめ」の整理・確認を行う(140 分×7 項目)。

* 各章終了後、羊土社から提供される栄養 WEB 演習問題を使った復習を推奨します。

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
栄養科学イラストレイテッド 生化学 第3版	藺田勝／編	羊土社

◆参考書

書 名	著 者	発行所
栄養科学イラストレイテッド 演習版 生化学ノート 第3版	藺田 勝／編	羊土社
99 項目でマスター 生物・化学	山本祐司・大石祐一 編	建帛社

◆関連科目

栄養生化学実験、栄養学、栄養学実験、臨床栄養学、応用栄養学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	60	小テスト	
レポート		実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	10	中間試験	30

(補足) 学習に取り組む姿勢・意欲は、欠席状況、受講態度を総合的に評価します。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

中間試験については、実施翌週に答案を返却し、解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・授業前の予習として授業範囲を教科書で確認し、不明な箇所をチェックした上で授業に臨むこと
- ・授業中に配布した資料を活用し、復習を必ず行うこと
- ・不明な点は放置せず、質問するだけでなく自分で調べて理解するよう心がける

◆オフィスアワー

受付時間： 授業時間以外 9:00～17:00
 受付場所： 食品生化学研究室 (7 号館 2F)
 上記で対応できない場合： E-mail にて対応

解剖生理学Ⅰ (2単位) (管理栄養学科)

開講時期 2年・前期
担当者氏名 正田 良介

◆授業概要

管理栄養士にとって必要な医学的知識を理解するための基礎として、人体の構造と機能を学ぶ。授業は「解剖生理学Ⅰ」と「解剖生理学Ⅱ」とに分割して行われる。「解剖生理学Ⅰ」では、総論として人体の構成の全体像、生体の情報伝達の仕組みと恒常性の維持について理解した後、各論の消化器系、筋骨格などの運動器系、循環器系、腎と尿路系の分野について学ぶ。各講義前半 1/3 程度は前回のまとめの内容とし、理解の促進と前回欠席者のスムーズな参加を促すようにしている。また、講義内容は動画として講義終了後に share point にアップする予定であり、復習・自習に活用してもらいたい。

◆到達目標

1. 人体の臓器の位置関係、各部の名称、構造を説明できる。
2. 各器官の正常な機能とその仕組みを説明できる。
3. 生体に起きている現象について自然科学的に説明できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	人体の構造①	人体の概要、細胞、組織	予習 教科書 (Ⅰ) 1 章 A-a-1, 2 (20 分)
			復習 人体の構造①の内容、内容とは教科書の事項と講義の重要点 (配付資料) で以下同様 (20 分)
2	人体の構造②	器官、細胞膜、細胞小器官	予習 教科書 (Ⅰ) 1 章 A-a-3, A-b (20 分)
			復習 人体の構造①の内容 (20 分)
3	人体の構造③	細胞の増殖・分化、生体成分の概要	予習 教科書 (Ⅰ) 1 章 A-c, d (20 分)
			復習 人体の構造③の内容 (20 分)
4	個体の恒常性とその調節機構①	細胞間情報伝達、神経系による調節	予習 教科書 (Ⅰ) 5 章 A-a, b-1, 2, 3, 4 (20 分)
			復習 恒常性と調節①の内容 (20 分)
5	個体の恒常性とその調節機構②	内分泌系による調節、受容体による情報伝達、細胞内情報伝達	予習 教科書 (Ⅰ) 5 章 A-b-5, c, d (20 分)
			復習 恒常性と調節②の内容 (20 分)
6	個体の恒常性とその調節機構③	ホメオスタシス (恒常性) : (低温・高温環境を含む)	予習 教科書 (Ⅰ) 5 章 B (20 分)
			復習 恒常性と調節③の内容 (20 分)
7	消化器系①	消化管の構造と機能 : 上部消化管、咀嚼・嚥下	予習 教科書 (Ⅱ) 5 章 A-a-1, 2, 3, A-c (20 分)
			復習 消化器系①の内容 (20 分)
8	消化器系②	消化管の構造と機能 : 下部消化管、消化管運動、排便	予習 教科書 (Ⅱ) 5 章 A-a-4, 5, A-e (20 分)
			復習 消化器系②の内容 (20 分)
9	消化器系③	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能、消化管ホルモン、消化吸収	予習 教科書 (Ⅱ) 4 章 A-b、5 章 A-b, d, e (20 分)
			復習 消化器系③の内容 (20 分)
10	運動器系①	骨・関節、骨・軟骨・関節・靱帯の構造と機能、骨の成長、リモデリング	予習 教科書 (Ⅱ) 11 章 A-a, b, c (20 分)
			復習 運動器系①の内容 (20 分)
11	運動器系②	全身の骨格筋の分布、筋肉の構造と機能、(無重力環境)	予習 教科書 (Ⅱ) 11 章 A-d (20 分)
			復習 運動器系②の内容 (20 分)
12	循環器①	心臓の機能と構造、体循環・肺循環	予習 教科書 (Ⅱ) 6 章 A-a, b-1, 2 (20 分)
			復習 循環器系①の内容 (20 分)
13	循環器②	血管の構造、動脈・静脈・門脈・リンパ系、血圧調節	予習 教科書 (Ⅱ) 6 章 A-b-3, 4, c (20 分)
			復習 循環器系②の内容 (20 分)

14	腎・尿路系①	腎臓の構造と尿の生成、体液量・組成・浸透圧、腎臓に作用するホルモン・血管作動物質	予習 教科書（Ⅱ）7章 A-a, b, c (20 分)
			復習 腎・尿路系①の内容 (20 分)
15	腎・尿路系②	電解質・体液調節、代謝性アシドーシス・アルカローシス	予習 教科書（Ⅱ）7章 A-d, e (20 分)
			復習 腎・尿路系②の内容 (20 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
人体の構造と機能及び疾患の成り立ち（Ⅰ）生化学、（Ⅱ）解剖生理学・病理学	（Ⅰ）佐々木康人、園田勝、細川優 （Ⅱ）加藤昌彦、近藤和雄、箱田雅之、井階幸一	第一出版

◆参考書

書 名	著 者	発行所
Visual 栄養学テキスト解剖生理学	福島光夫（編）	中山書店
管理栄養士のための イラスト解剖生理学	開道貴信	講談社

◆関連科目

解剖生理学Ⅱ、病理学Ⅰ、病理学Ⅱ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（％）	評価項目	評価比率（％）
定期試験	70	小テスト	
レポート		実技（発表・コミュニケーション）	10
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

（補足）定期試験の成績を基本とするが、出席状況を含む授業へ参加する姿勢が良好な場合には評価する。正当な理由がある欠席に関しては考慮する。本科目の学習に当たり、学生としての一般的な予習・復習を行い、授業中に配付資料に書き込みをするなどしながらきちんと聴講すれば、十分な評価は得られる。特に、短時間でも良いので授業後に教科書や配付資料・動画（予定）をもとに復習をすることは効果的である。細かい知識の習得も不要というわけではないが、解剖生理学の枠組みや相対的な関連が理解できていると、将来の資格試験の際や実際に職業に就いた際に自ら学ぶことがより楽しくできるようになる可能性が高くなる。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

授業後の質疑応答やフィードバック授業などで行う。また、可能な範囲で研究室での質疑応答は行いたいと考えている（オフィスアワー参照）。

◆受講上の注意事項及び助言

管理栄養士は、「病をもつ人」の栄養管理をすることが許される国家資格です。資格を持たない人にはそれができないということです。栄養のことをきちんと学ぶことは当然ですが、「病をもつ人」の理解も必要不可欠です。正常人の身体の構造と機能を学ぶのが「解剖生理学Ⅰ・Ⅱ」であり、それに基づいて、病気のことを学ぶのが「病理学Ⅰ・Ⅱ」です。解剖生理学は、病理学を学ぶ前提となります。就業して、患者さんをはじめ、多くの医療関係の職種とチームを組んで仕事をする際の共通言語としても、解剖生理学や病理学は必要です。長時間を割く必要はありませんが、予習をすることで講義の理解が容易になり、復習をすることで正確な名称や機能が確認できるようになります。その上で、解剖学全体の中での位置づけや枠組みが理解できれば、将来的にも役立つことが多くなります。教科書には重要な事実が記載されていますが、講義ではその理由が少しでも理解できるように話を進めたいと考えています。

◆オフィスアワー 詳細は授業中に指示する。

受付時間： 月曜または水曜の 16:15-17:00、及び金曜日 12:00-12:30（変更の可能性あり）

受付場所： 解剖生理学研究室

上記で対応できない場合：各講義時間終了後、必要に応じて相談に対応する。

食品学総論Ⅱ (2単位) (管理栄養学科)

開講時期 2年・前期
担当者氏名 古庄 律

◆授業概要

加熱、凍結、乾燥、光あるいは成分間の相互作用等により食品成分（炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル等）が、どのように変化するかについて解説する。また、食品の嗜好性に影響を与える香気成分、呈味成分、色素成分についても概説し、食品の基礎知識に加えた向上的知識の修得を目的とする。さらにテクスチャー、レオロジーおよび官能評価による食品の評価法についても解説する。

◆到達目標

1. 食品成分の化学変化を説明できる。
2. 食品の香気成分、呈味成分、色素成分について説明できる。
3. 食品の特性が食品加工や貯蔵にどのように役立てられているかを説明できる。
4. 食品の物性および官能評価による食品の評価法を説明できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	食品成分の変化と加工・保蔵（1）	水分吸着等温線と水分活性	予習 教科書および配信資料の熟読（30分）
			復習 配信資料をもとにノートにまとめる（60分）
2	食品成分の変化と加工・保蔵（2）	空気組成の調節と低温保蔵	予習 教科書および配信資料の熟読（30分）
			復習 配信資料をもとにノートにまとめる（60分）
3	食品成分の変化と加工・保蔵（3）	酵素的褐変と非酵素的褐変	予習 教科書および配信資料の熟読（30分）
			復習 配信資料をもとにノートにまとめる（60分）
4	食品成分の変化と加工・保蔵（4）	脂質の酸化	予習 教科書および配信資料の熟読（30分）
			復習 配信資料をもとにノートにまとめる（60分）
5	食品成分の変化と加工・保蔵（5）	脂質の酸化防止・抗酸化	予習 教科書および配信資料の熟読（30分）
			復習 配信資料をもとにノートにまとめる（60分）
6	食品成分の変化と加工・保蔵（6）	たんぱく質の変性	予習 教科書および配信資料の熟読（30分）
			復習 配信資料をもとにノートにまとめる（60分）
7	食品成分の変化と加工・保蔵（7）	デンプンの糊化と老化	予習 教科書および配信資料の熟読（30分）
			復習 配信資料をもとにノートにまとめる（60分）
8	中間試験	第1回～第7回までのまとめ	予習
			復習
9	食品成分の変化と加工・保蔵（8）	ビタミンの変化	予習 教科書および配信資料の熟読（30分）
			復習 配信資料をもとにノートにまとめる（60分）
10	食品の色	色素成分	予習 教科書および配信資料の熟読（30分）
			復習 配信資料をもとにノートにまとめる（60分）
11	食品の香り	香気成分	予習 教科書および配信資料の熟読（30分）
			復習 配信資料をもとにノートにまとめる（60分）
12	食品の味	甘味、酸味、塩味、苦味、旨味、辛味、渋味、えぐ味	予習 教科書および配信資料の熟読（30分）
			復習 配信資料をもとにノートにまとめる（60分）
13	食品と酵素	食品の酵素の種類と特性	予習 教科書および配信資料の熟読（30分）
			復習 配信資料をもとにノートにまとめる（60分）

14	食品の有毒成分	植物性自然毒、動物性自然毒、アレルゲン、変異原性物質	予習 教科書および配信資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料もとにノートにまとめる (60 分)
15	食品の物性	コロイド、懸濁と乳濁、レオロジー	予習 教科書および配信資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料もとにノートにまとめる (60 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
標準食品学総論	青柳康夫、筒井知己	医歯薬出版

◆参考書

書 名	著 者	発行所

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験 (中間試験を含む)	90	小テスト	
ノート	5	実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲 (補足)	5		

- ・15回の授業すべてに遅刻をせず出席することが前提である。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

- ・中間試験の実施後に解答および解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・事前にアップデートされた講義資料をダウンロードしてのPCの持ち込み、または印刷して講義に出席すること。また、各回終了時に復習として手書きでノートを整理しておくこと。
定期試験の際にノートを提出する (評価対象)

◆オフィスアワー

受付時間： 講義開講日 16:10～17:00

受付場所： 1号館4階 研究室

上記で対応できない場合：指定されたドメインを利用してのメール

食品学各論Ⅰ (2単位) (管理栄養学科)

開講時期 2 年・前期
担当者氏名 古庄 律

◆授業概要

日本では季節や地域を問わず様々な食品を自由に選択して食べることができる。それは豊かで充実した食生活といえるが、一方では摂取量過多や偏った栄養素の摂取による生活習慣病の引き金とも成り得る。この講義では、食品の分類、食品成分表の成り立ちに続いて、植物性食品個々の名前、代表的な生産地、生産量、消費量、成分の特徴とその食品を摂取する栄養学的な意義、また、それらを材料とした加工食品の製造について解説する。

◆到達目標

1. 食品の分類方法について説明できる。
2. 食品成分表の活用方法について説明できる
3. 個々の植物性食品の産地、生産量、消費状況を説明できる。
4. 個々の植物性食品の食品学特徴、栄養学的特徴を説明できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	食品の分類と食品成分表	食品の分類方法と食品成分表の活用方法	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
2	穀類の食品栄養学的特性 (1)	米の種類、生産・消費と成分特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
3	穀類の食品栄養学的特性 (2)	小麦の種類、生産・消費と成分特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
4	穀類の食品栄養学的特性 (3)	大麦、とうもろこし、雑穀の種類、生産・消費と成分特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
5	イモ類の食品栄養学的特性	いも類の種類、生産・消費と成分特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
6	豆類の食品栄養学的特性 (1)	豆類の種類、大豆の生産・消費と成分特性及び利用方法	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
7	豆類の食品栄養学的特性 (2)	大豆以外の豆類の生産・消費と成分特性及び利用方法	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
8	中間試験	第1回～第7回までのまとめ	予習
			復習
9	種実類の食品・栄養学的特性	種実類の種類、生産・消費と栄養	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
10	野菜類の食品・栄養学的特性 (1)	野菜類の種類、生産・消費と栄養	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
11	野菜類の食品・栄養学的特性 (2)	野菜類の種類、生産・消費と栄養	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
12	野菜類の食品・栄養学的特性 (3)	野菜類の種類、生産・消費と栄養	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)

13	果実類の食品・栄養学的特性 (1)	果実類の分類と成分特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
14	果実類の食品・栄養学的特性 (2)	果実類の栄養 (糖質、ビタミン、ミネラル、有機酸)	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
15	きのこ、藻類の食品栄養学的特性	きのこ類、海藻類の種類と成分特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
食べ物と健康 食品の科学	太田、白土、古庄 編集	南江堂

◆参考書

書 名	著 者	発行所
日本食品成分表 2025		医歯薬出版

◆関連科目

食品学総論、食品学各論Ⅱ、調理学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験・中間試験	90	小テスト	
ノート	5	実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	5		

(補足)

15 回の授業すべてに遅刻をせず出席することを前提として「成績評価の方法・基準」により評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

中間試験の実施後に解答および解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

事前にアップデートされた講義資料をダウンロードしての PC の持ち込み、または印刷して講義に出席すること。また、各回終了時に復習として手書きでノートを整理しておくこと。

定期試験の際にノートを提出する (評価対象)

◆オフィスアワー

受付時間： 講義開講日 16 : 10 ~ 17 : 00

受付場所： 1 号館 4 階 研究室

上記で対応できない場合：指定されたドメインを利用したメール

基礎栄養学Ⅱ (2 単位) (管理栄養学科)

開講時期 2 年・前期
担当者氏名 大塚 静子

◆授業概要

基礎栄養学Ⅱでは、基礎栄養学Ⅰに引き続き生体においてビタミンやミネラルの欠乏症・過剰症、水・電解質の生理的役割および生体におけるエネルギー代謝の概念について学ぶ。また遺伝形質と栄養の相互作用について、生活習慣病の発症に影響を及ぼす遺伝子多型について学ぶ。個人のエネルギー消費量の算出や骨密度の測定などを取り入れ、自身の健康状態を知ることにより健康の保持・増進について学習する。

◆到達目標

1. 各栄養素が生体内で果たす役割と健康・疾患との関係について理解することができる。
2. 摂取栄養素が生体内でエネルギーを作り出す過程（エネルギー代謝）を理解することができる。
3. 管理栄養士国家試験の「基礎栄養学」分野の内容を理解することができる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	ビタミンの栄養 (1)	ビタミンの分類と機能 脂溶性ビタミン	予習 教科書 p.125～129 を読む (60 分)
			復習 脂溶性ビタミンの欠乏症・過剰症をまとめる (60 分)
2	ビタミンの栄養 (2)	ビタミンの構造と機能 水溶性ビタミン	予習 教科書 p.135～137 を読む(60 分)
			復習 水溶性ビタミンの欠乏症・過剰症をまとめる (60 分)
3	ビタミンの栄養 (3)	ビタミンの生物学的利用度	予習 教科書 p.138～140 を読む (60 分)
			復習 腸内細菌叢とビタミンをまとめる (60 分)
4	ミネラルの栄養 (1)	ミネラルの分類と機能 多量ミネラル	予習 教科書 p.142～144 を読む (60 分)
			復習 多量ミネラルの欠乏症・過剰症をまとめる (60 分)
5	ミネラルの栄養 (2)	ミネラルの分類と機能 微量ミネラル	予習 教科書 p.145～148 を読む (60 分)
			復習 微量ミネラルの欠乏症・過剰症をまとめる (60 分)
6	ミネラルの栄養 (3)	ミネラルの生物学的利用度	予習 教科書 p.149～152 を読む (60 分)
			復習 カルシウム、鉄の消化吸収率の変動要因をまとめる (60 分)
7	骨密度 (1)	「超音波骨密度測定装置」を用い 利き足の骨密度測定を行う	予習 「骨密度」について調べる (60 分)
			復習 骨密度測定の分析結果から同年齢の人と比較し、食事や運動について検討する(60 分)
8	中間試験	第7章～第8章までの小テスト	予習 まとめプリント・配布資料を読む (60 分)
			復習 中間試験・間違いの確認をする (60 分)
9	エネルギー代謝 (1)	エネルギー代謝と概念 エネルギー消費量の測定	予習 教科書 p.169～173 を読む (60 分)
			復習 基礎代謝量についてまとめる (60 分)
10	エネルギー代謝 (2)	臓器別エネルギー代謝 エネルギー消費量の計算	予習 教科書 p.175～181 を読む (60 分)
			復習 エネルギー代謝の測定方法をまとめる (60 分)
11	水・電解質(1)	生体内の水、水の出納	予習 教科書 p.154～156 を読む (60 分)
			復習 水の出納をまとめる (60 分)

12	水・電解質(2)	脱水・浮腫、電解質代謝と栄養	予習 教科書p.158～166を読む (60分)
			復習 脱水の種類をまとめる (60分)
13	遺伝形質と栄養の相互作用(1)	遺伝子多型	予習 教科書p.20～22を読む (60分)
			復習 遺伝子多型と遺伝子異常をまとめる(60分)
14	遺伝形質と栄養の相互作用(2)	生活習慣病と遺伝子多型	予習 教科書p.23～26を読む (60分)
			復習 生活習慣病の発症に影響を及ぼす遺伝子多型をまとめ (60分)
15	まとめ	栄養学Ⅰ～Ⅱの総まとめ	予習 プリント・ノートの確認をする (60分)
			復習 プリント・ノートの総復習をする (60分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第4版	田辺陽一／編	羊土社

◆参考書

書 名	著 者	発行所
栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学ノート 第4版	田辺陽一／編	羊土社
栄養科学イラストレイテッド 生化学 改訂第3版		羊土社

◆関連科目

基礎栄養学Ⅰ、栄養生化学Ⅰ・Ⅱ、栄養学実験、応用栄養学、臨床栄養学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	70	小テスト	10
レポート		実技（発表・コミュニケーション）	
学習に取り組む姿勢・意欲	10	中間テスト	10

（補足）各章のまとめのプリントを仕上げること。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

小テストは解答・解説を行い返却する。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・栄養学は基礎の教科であり、「応用栄養学」や「臨床栄養学」の分野の科目の理解には不可欠である。
- ・各章のまとめプリントを仕上げることにより基礎学力の定着をはかる。
- ・生化学で学習した各栄養素について振り返っておくと理解が深まる。

◆オフィスアワー

受付時間：火～金 16：30～17：30

受付場所：基礎栄養学研究室（1号館2階）

上記で対応できない場合：E-mail(otsuka@tsc-05.ac.jp)にて対応する。

栄養学実験 (1単位) (管理栄養学科)

開講時期 2年・前期
担当者氏名 大塚 静子

◆授業概要

栄養学実験では五大栄養素の構造と機能および代謝について実験を通して学習する。

- 1) 糖質、脂質、たんぱく質に関する定量実験、
- 2) ビタミン、ミネラルに関する定量実験、
- 3) 酵素に関する実験、
- 4) ヒトの栄養状態の評価・判定を行い栄養状態の良否を学ぶ。

1. 栄養学実験の基本的な測定方法を理解することができる。
2. 実験に必要な試薬調整ができる。
3. 実験を通して生体内での各栄養素の役割を理解することができる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	栄養学実験および実験基礎知識について	栄養学の実験授業の進め方 (実験項目) 評価基準、諸注意	予習 教科書 (化学同人) P6～実験の基礎知識について読んでおく (30 分)
			復習 実験に臨む心得を確認する (90 分)
2	吸光度測定・試薬調製・検量線作成	吸光度測定の原理、分光光度計の操作法、検量線作成に用いる試薬調製法 (ゴモリー法)	予習 教科書 (化学同人) P21～比色定量について読んでおく (30 分)
			復習 検量線をグラフ用紙に作成する 最小二乗法より求めるレポート作成(90 分)
3	糖質に関する実験(1)	グリコーゲン代謝と肝臓グリコーゲンの抽出法	予習 教科書 (化学同人) P34～グリコーゲンについて読んでおく (30 分)
			復習 グリコーゲンの抽出までをまとめる (90 分)
4	糖質に関する実験(2)	肝臓グリコーゲンの定量 (フェノール硫酸法)	予習 教科書 (化学同人) P34～グリコーゲンについて読んでおく (30 分)
			復習 グリコーゲンの定量までをまとめる レポート作成 (90 分)
5	脂質に関する実験	中性脂肪の働きと定量法 (アセチルアセトン法)	予習 教科書(地人書館)P86～脂質について読んでおく (30 分)
			復習 アセチルアセトン法についてまとめる レポート作成 (90 分)
6	たんぱく質に関する実験(1)	たんぱく質の役割・代謝の理解 たんぱく質定量に必要な試薬調製	予習 教科書 (化学同人) P47～たんぱく質について読んでおく (30 分)
			復習 試薬調製に伴う計算式の確認をする (90 分)
7	たんぱく質に関する実験(2)	たんぱく質の定量 (ローリー法)	予習 教科書 (化学同人) P47～たんぱく質について読んでおく (30 分)
			復習 ローリー法についてまとめる レポート作成 (90 分)
8	中間テスト	小テスト (糖質・脂質・たんぱく質)・解説・質問	予習 配布資料を参考に糖質・脂質・たんぱく質についてまとめる (90 分)
			復習 小テストの復習 (30 分)
9	ビタミンに関する実験(1)	ビタミン定量用試薬の調製	予習 教科書(地人書館)P30～ビタミン C について読んでおく (30 分)
			復習 試薬調製に伴う計算式の確認をする (90 分)
10	ビタミンに関する実験(2)	ビタミン C 負荷試験 (ヒドラジン法)	予習 教科書(地人書館)P30～ビタミン C について読んでおく (30 分)
			復習 ヒドラジン法についてまとめる レポート作成 (90 分)
11	ミネラルの栄養	血清および糞・尿中のミネラル測定 (原子吸光法)	予習 教科書(地人書館)P33～無機質について読んでおく (30 分)
			復習 原子吸光法についてまとめる (90 分) レポート作成 (90 分)

12	酵素に関する実験(1)	酵素の性質および特性について (講義)	予習 教科書(化学同人) P60～酵素について読んでおく (30 分)
			復習 酵素の特異性についてまとめる (90 分)
13	酵素に関する実験(2)	酵素反応と基質濃度の関係より K_m 値を求める	予習 教科書(化学同人) P60～酸性フォスファターゼについて読んでおく (30 分)
			復習 実験データを整理する (90 分)
14	酵素に関する実験(3)	酵素反応と阻害作用	予習 教科書(化学同人) P60～酸性フォスファターゼについて読んでおく (30 分)
			復習 実験データをグラフ化する (90 分)
15	栄養判定・体力測定	身長・体重から自身の栄養指数を算出する(体脂肪率を測定)	予習 教科書(地人書館)p130～p138 を読んでおく (30 分)
			復習 自身の栄養判定について検討する (90 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
生理・生化学実験 第4版	谷政八 他	地人書館
生化学実験	田代操 編	化学同人

◆参考書

書 名	著 者	発行所
栄養科学イラストレット 基礎栄養学	田地陽一	羊土社
栄養科学イラストレット 生化学	藺田勝	羊土社

◆関連科目

基礎栄養学Ⅰ・Ⅱ、栄養生化学Ⅰ・Ⅱ、栄養生化学実験Ⅰ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	
レポート	30	実技(発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	10	中間テスト	10

(補足) 学習に取り組む姿勢・意欲の評価には、欠席回数・遅刻の回数、受講態度も加味する。

レポートは4段階(3点、2点、1点、0点)で評価する。

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

小テストは解答、解説を行い返却する。レポートは内容をチェックし添削して返却する。

◆受講上の注意事項及び助言

1. 各班員が共通の理解と認識を持って実験に臨むこと。
2. 器具や試薬の扱いについての注意を良く聞き実験に臨むこと。
3. 実験は出席することが大切であり、実験終了後レポートを提出する事により完結する。
レポート未提出の場合は、再履修となる。

◆オフィスアワー

受付時間：火～金 16:30～17:30

受付場所：基礎栄養学研究室(1号館2階)

上記で対応できない場合：E-mail(otsuka@tsc-05.ac.jp)にて対応する。

応用栄養学 I (2 単位)

開講時期 2 年・前期 (管理栄養学科)

担当者氏名 小林陽子

◆授業概要

本科目は、保健所及び保健センター等保健分野、子ども部保育分野に 30 年間行政栄養士として勤務した経験を持つ教員が担当する。それぞれの分野で遂行した乳幼児から高齢者までの実践的な栄養教育や地域の健康づくり・食育の推進のためのネットワークづくり、地域の様々な分野をつなぐコーディネーターとして得た知識や技術を管理栄養士養成に活用する。

応用栄養学 I では、対象の身体状況や栄養状態に応じた基本的な栄養ケア・マネジメントの概念について理解する。次いで、妊娠期から学童期に至るまでのライフステージ別人体の構造や機能の変化、生理的特徴、栄養と疾患・病態とそれに対応した栄養ケア・マネジメントの考え方について理解する。

栄養生化学、解剖生理学、病理学、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学との関連が深い科目であり、対象者を総合的に捉え、理解することを目指す。

◆到達目標

1. 栄養状態や身体機能に応じた栄養ケア・マネジメントの基本的な考え方について説明できる。
2. 食事摂取基準 (2020 版) 策定の考え方や基礎理論について説明できる。
3. 妊娠期から学童期における栄養状態や心身機能の特徴に基づいた基礎的な栄養ケア・マネジメントについて説明できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習
1	栄養ケア・マネジメントの概念	・栄養ケア・マネジメントの概要、栄養ケア・マネジメントの手順 ・小テスト	予習：栄養ケア・マネジメントの概要についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(80 分)
2	栄養ケア・マネジメント	・栄養スクリーニング、栄養アセスメントの種類と方法 ・小テスト	予習：栄養スクリーニング・アセスメント項目についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
3	栄養ケアプログラム	・栄養ケアプログラムの計画・実施・評価 ・小テスト	予習：栄養ケアプログラムの立て方・ポイントについてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
4	日本人の食事摂取基準の基礎的理解 ①	・食事摂取基準 (2025 年版) 策定の目的、策定の基礎理論、活用の基礎理論 ・小テスト	予習：食事摂取基準の策定目的・理論・指標についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
5	日本人の食事摂取基準の基礎的理解 ②	・食事摂取基準 (2025 年版) 活用の基礎理論 ・小テスト	予習：食事摂取基準の策定目的・理論・指標についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
6	成長・発達・加齢の概念	・成長・発達、加齢に伴う身体的・精神的变化と栄養 ・小テスト	予習：成長・発達、加齢に伴う変化についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
7	妊娠期の栄養 1	・妊娠の生理、妊娠期の生理的特徴 ・小テスト	予習：妊娠期の整理・特徴についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)

8	妊娠期の栄養 2	・妊娠期の栄養アセスメント ・小テスト	予習：妊娠期の栄養アセスメントについてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
9	妊娠期の栄養 3 授乳期の栄養	・栄養関連の疾患と栄養ケア ・授乳期の生理的変化と生理的特徴、授乳期の栄養アセスメント、栄養関連の疾患と栄養ケア ・小テスト	予習：妊娠期及び授乳婦の疾患と栄養ケアについてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
10	乳児期の栄養 1	・新生児期、乳児期の生理的特徴、新生児期、乳児期の栄養と代謝 ・小テスト	予習：新生児期・乳児期の生理的特徴についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
11	乳児期の栄養 2	・栄養補給法、離乳の意義と離乳の進め方 ・小テスト	予習：乳児期の栄養補給法、離乳の進め方についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
12	乳児期の栄養 3	・乳児期の栄養アセスメント、栄養関連の疾患と栄養ケア ・小テスト	予習：乳児期の栄養アセスメント、疾患についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
13	幼児期の栄養 1	・幼児期の生理的特徴、幼児期の成長・発達、栄養上の特徴 ・小テスト	予習：幼児期の生理的特徴、成長・発達についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
14	幼児期の栄養 2	・幼児期の栄養アセスメント、栄養関連の問題点や疾患と栄養ケア、適切な食習慣の形成と食育の重要性 ・小テスト	予習：幼児期の栄養アセスメント、疾患、食育についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
15	まとめ及び食事摂取基準	・まとめ ・食事摂取基準基礎的理解 ・小テスト	予習：各ライフステージ特徴と栄養ケアについてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テストの正文化、解説を作成する。(60 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
ステップアップ応用栄養学 2 版	北島幸枝編	化学同人

◆参考書

書 名	著 者	発行所
日本人の食事摂取基準 (2025 年版)	厚生労働省「日本人の食事摂取基準(2025 年版)」策定検討会報告書	第一出版
食事摂取基準 理論と活用	日本栄養改善学会 監修	医歯薬出版
応用栄養学 ライフステージ別・環境別	日本栄養改善学会 監修	医歯薬出版

◆関連科目

専門基礎分野（栄養生化学、解剖生理学、病理学）

専門分野（栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学）

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（％）	評価項目	評価比率（％）
定期試験	60	小テスト	20
レポート		実技（発表・コミュニケーション）	
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

（補足）課題の提出については、必ず締め切り日までに提出すること。

学習に取り組む姿勢・意欲については、授業時の態度から総合的に評価する。

応用栄養学Ⅰは、臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの履修基準となっている。積極的に授業に臨んでください。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

授業内で小テストを実施した後、答え合わせをする。課題として問題の正文化及び解説を作成する。

レポート等提出物は添削し、返却する。または、授業内で総評を述べる。

◆受講上の注意事項及び助言

○栄養士実力認定試験 A ランク取得に向けての知識と能力を身に付けることを目指す。

○小テストを行うので、必ず復習をする。

○欠席厳禁。遅刻・早退3回で1回欠席とする。

○授業に必要な資料（食品成分表、臨床検査の本、料理の本など）は、各自で用意しておく。

○管理栄養士にとって不可欠な科目であるため、興味を持って取り組んでください。事前に予習をしてくることで講義内容が理解できます。また、確認テストの結果を見直して、教科書の該当箇所にラインかマーカーを引いたり、授業時に配布された資料や教科書の該当箇所、参考書も利用してノート整理をしながらまとめるとより一層理解が深まります。My ノートを随時作成しておけば試験対策の時も役立ちます。

◆オフィスアワー

受付時間：新学期開始時に学務課からの掲示を確認すること。

受付場所：教室または研究室

上記で対応できない場合：研究室の前のメッセージボードを活用する。

栄養教育論Ⅱ

(2 単位) (管理栄養学科)

開講時期 2 年前期

担当者氏名 高橋 美恵子

◆授業概要

本科目は国立病院機構に 37 年勤務し、患者の栄養食事指導に携わった教員が担当する。授業では栄養教育のマネジメントの概略と一連の流れを理解することを目的とする。

マネジメントサイクルに沿った栄養教育を行うために必要な栄養食生活情報の入手方法、情報の分析・評価法、対象者に応じた栄養教育のカリキュラムの立案、教育方法の選択、指導形態、教材の種類・特徴について学ぶ。また、コミュニケーション技法、栄養教育の実施と評価、評価結果をフィードバックする方法を学習し、栄養教育プログラムを作成するための知識を身につける。

◆到達目標

1. 栄養教育のマネジメントサイクルを理解し、説明ができる。
2. 対象者にあったアセスメント方法を理解し、実践できる。
3. さまざまな目標の定義を理解し、説明できる。
4. 評価の種類とその方法について理解し、説明できる。
5. 栄養教育プログラムを作成できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	栄養教育マネジメント	ガイダンス 栄養教育マネジメント	予習：シラバスを読む。マネジメントサイクルについて調べる。(60 分) 復習：マネジメントサイクルについて理解する。(60 分)
2	栄養教育の対象と機会	ライフステージ・ライフスタイル・健康状態からみた対象者と機会	予習：栄養教育の対象と機会をまとめる。(60 分) 復習：栄養教育の対象と機会について理解する。(60 分)
3	栄養教育のためのアセスメント	栄養教育におけるアセスメントの意義と目的、情報収集の方法	予習：情報収集の方法について調べる。(60 分) 復習：情報収集の方法についてまとめて覚える。(60 分)
4	栄養教育の目標設定と計画立案①	栄養教育プログラムの基本、教育の目標設定	予習：栄養教育プログラムについて調べる。(60 分) 復習：栄養教育の目標設定についてまとめて覚える。(60 分)
5	栄養教育の目標設定と計画立案②	栄養教育方法の選択	予習：栄養教育方法の種類について調べる。(60 分) 復習：栄養教育方法の種類と特徴についてまとめる。(60 分)
6	栄養教育の目標設定と計画立案③	学習形態の種類と方法	予習：学習形態の種類について調べる。(60 分) 復習：レポート課題について調べる (60 分)
7	栄養教育の目標設定と計画立案④	教材の種類と選択 教材利用の目的、掲示方法	予習：教材の種類について調べる。(60 分) 復習：レポート課題についてまとめる。(60 分)
8	栄養教育の目標設定と計画立案⑤	栄養教育教材の種類 食生活指針、食事バランスガイド他	予習：食生活指針、食事バランスガイドについて調べる。(60 分) 復習：発表スライドの作成。(60 分)
9	栄養教育の目標設定と計画立案⑥	健康教育に関する指針 学習者の決定、全体計画	予習：その他の健康教育に関する指針について調べる。(60 分) 復習：発表スライドの作成。(60 分)
10	栄養教育の目標設定と計画立案⑦	パンフレット・アプリの紹介（学生発表）	予習：スライドの最終確認と発表にむけての練習 (60 分) 復習：発表内容をまとめる。(60 分)
11	栄養教育計画の実施	施実施者の技術、プレゼンテーション、コミュニケーション技法 実施に向けての準備	予習：栄養教育の実施の事前準備について調べる。(60 分) 復習：グループ発表に向けた準備。(60 分)
12	栄養教育の評価①	評価の意義と種類、評価の手順 グループワーク（発表に向けた準備）	予習：評価の種類について調べる。(60 分) 復習：評価の種類。(60 分)
13	栄養教育の評価②	評価デザインの選択 評価結果のフィードバック グループワーク（発表に向けた準備）	予習：評価のデザインについて調べる。(60 分) 復習：評価のデザインについてまとめる。(60 分)

14	グループ発表	栄養教育プログラムに関するグループ発表	予習：グループ発表練習。(60分)
			復習：他班の発表内容からの学習(60分)
15	まとめ	1回目～14回目のまとめ	予習：今までに学んだ授業内容をまとめる。(60分)
			復習：授業で学んだことを再確認し、定期試験に向けて学習する。(60分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
栄養教育論(改訂第5版)	武見ゆかり、足立淑子 他	南江堂
配布プリント(授業内、及び栄養教育論Ⅰで配布したプリント)		

◆参考書

書名	著者	発行所
栄養教育論－栄養の指導－第22版	石井幸江他	学建書院

◆関連科目

栄養教育論Ⅰ、応用栄養学、公衆栄養学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率(%)	評価項目	評価比率(%)
定期試験	65	小テスト	10
レポート	10	実技(発表・コミュニケーション)	10
学習に取り組む姿勢・意欲	5		

(補足)

- ・授業の復習、理解度の確認として、授業の最後に小テストを実施して評価する。
- ・レポートは2回課し、課題の提出日時を守り、誤字・脱字がなく、適切にまとめられているかを6段階(5点、4点、3点、2点、1点、0点)で評価する。
発表時の感想文や評価表についても4段階(3点、2点、1点、0点)で評価する。
- ・実技は、個人とグループ、各6段階(5点、4点、3点、2点、1点、0点)で評価する。
- ・学習に取り組む姿勢・意欲は、授業内での発言、グループ作業に意欲的に取り組んでいるかを評価する。

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

小テストは授業内に答え合わせと解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

遅刻・欠席をせず、積極的に参加をする。授業に必要なテキスト及び資料は各自で調べて用意する。
授業内に配布したプリントおよびノートを整理しファイリングする。
欠席した場合は、欠席課題を提出。

◆オフィスアワー

受付時間：授業日 授業終了後～17時30分

受付場所：栄養教育研究室(1号館3F)

上記で対応できない場合：研究室前のメッセージボードの活用及び電子メール(takahashi-mie@tsc-05.ac.jp)

給食計画論

(2 単位) (管理栄養学科)

開講時期 2 年・前期
担当者氏名 風見 公子

◆授業概要

給食は、法的根拠に基づいて提供されているため関係法規を理解した上で、管理栄養士に求められる給食の経営・管理方法及びマネジメント能力を身につける第一段階として食事・栄養管理の基本についての基礎知識を習得することを目的とする。基本的には、前半は教科書・授業プリントを用いた講義形式をとり、知識や理解が確実なものとなるようにレポート等を行う。後半では前半で学んだ栄養計画を基に各自献立作成をし、それを自ら評価し、その内容についてパワーポイントを用い、プレゼンテーションする。またクラス全員の評価をするアクティブ・ラーニング形式で進める。

◆到達目標

1. 給食における管理栄養士の役割とする献立作成を基とした給食の運営、給食の目標・計画・実施・評価を説明できる。
2. 栄養・食事管理の献立立案と献立計画を実施できる。
3. 特定給食施設の事業所の特徴や給食の運営・管理に必要な知識や考え方を理解し実務に対応できる献立作成を実施し、プレゼンテーションすることができる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	授業の概要の説明および諸注意 給食の意義・目的	オリエンテーション・予習・復習の方法について 特定給食施設の意義・目的 主食・主菜・副菜について	予習：給食経営管理論第 1 章給食の概念を読み、給食とは何か答えられるようにする。(120 分) 復習：いろいろな食事をみて、主食・主菜・副菜が揃っているかどうか主食・主菜・副菜料理成分表をみて確認する。(120 分)
2	栄養計画(1)	食品成分表の活用方法(1) よく使用する食品にマーカーをつける	予習：食品成分表の使用方法を読み、わからない語句があれば調べておく。(120 分) 復習：食品成分表を使用しやすいように色づけやインデック等をつける。(120 分)
3	栄養計画(2)	食品成分表の活用方法(2) 食品成分表を用いた計算	予習：食品成分表でよく使用する食品でわからなかった食品を調べておく。(120 分) 復習：食品成分表を用いた計算を完成させる。(120 分)
4	栄養計画(3)	日本人の食事摂取基準量について 特に給食の部分を中心として	予習：日本人の食事摂取基準のプリントを読み、給食と食事摂取基準について答えられるようにする。(60 分) 復習：給食と食事摂取基準についてまとめる。(120 分)
5	栄養計画(4)	給与栄養目標量の作成について(1) 保育園給食を例として	予習：給食施設のための献立作成マニュアルの給与栄養目標量の項を読んでおく。(60 分) 復習：給与栄養目標量の作成で何を気を付けるべきかまとめておく。(120 分)
6	栄養計画(5)	給与栄養目標量の作成について(2) 給与栄養目標量の作成を例題を用いて計算 食品構成について(1)	予習：給食施設のための献立作成マニュアルの食品構成の項を読んでおく。(60 分) 復習：食品構成とは何であるか説明できるようにまとめておく。(60 分)
7	栄養計画(6)	食品群別荷重平均栄養成分について(1)	予習：給食施設のための献立作成マニュアルの食品群別荷重平均栄養成分の項を読んでおく。(60 分) 復習：全て授業内のことがわかったか、確認をする。理解できないことはまとめておく。(60 分)
8	栄養計画(7)	食品群別荷重平均栄養成分について(2) 食品構成について(2) 例題を用いて計算	予習：授業 6 回、7 回のプリントを読み、作成方法を説明できるようにしておく。(120 分) 復習：例題を用いた計算を完成させる。(60 分)
9	栄養計画(8)	調味%、献立の書き方、エネルギー及び栄養素計算の注意点等	予習：大量調理基礎実習で学んだプリントを読み、献立作成時に必要な項目をあげておく。(60 分) 復習：献立作成時に注意すべきことをまとめておく。(60 分)
10	栄養計画(9) 食事計画	栄養出納表について 予定献立の作成について	予習：給食施設のための献立作成マニュアルの栄養出納表の項を読んでおく。(60 分) 復習：献立作成するために料理の本を集める。(60 分)
11	献立の評価	栄養計画を基に献立を作成する方法と評価方法について パワーポイントを用いた発表方法について	予習：1 回から 10 回までのプリント類を確認し、献立作成ができる用意をする。(120 分) 復習：献立を作成し、料理を作り写真を撮る。(240 分)
12	特定給食施設の献立作成(1)	計画を基に事業給食における単一定食の献立作成	予習：自分の立てた献立の問題点を発見する。(120 分) 復習：事業所給食に適した献立に変更する。(120 分)

13	特定給食施設の献立の作成(2)	計画を基に事業給食における単一定食の献立作成のブラッシュアップする。	予習：自分の立てた事業所給食の献立を自宅で作成する。(120分) 復習：自分の立てた事業所給食の献立のプレゼン資料を作成する。(240分)
14	特定給食施設の献立の評価(1)	定食献立作成の評価・分析 (PP を用いた発表)	予習：他の人の事業所給食の献立のプレゼン資料を聞き、自分の献立をより良いものに変更する。(120分) 復習：自分の立てた事業所給食の献立のプレゼン資料を確認し、よりよくなるように訂正し、レポートとして15回目終了後に提出する。(120分)
15	特定給食施設の献立の評価(2)	定食献立作成の評価・分析 (PP を用いた発表)・まとめ	予習：自分の立てた事業所給食の献立のプレゼン資料を確認し、よりよくなるように訂正し、レポートとして15回目終了後に提出する。(120分) 復習：全体のまとめて話した内容をまとめておく。(300分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
給食経営管理論	細山田洋子、宮原公子、風見公子他	化学同人
新調理システム対応 給食経営管理論実習・演習	大原栄二、近江雅代、風見公子他	建帛社
給食施設のための献立作成マニュアル	赤羽正之、他	医歯薬出版
八訂食品成分表	香川明夫 監修	女子栄養大学出版部
主食・主菜・副菜料理成分表	足立己幸、他	群羊社
調理のためのベーシックデータ	女子栄養大学	女子栄養大学出版部

(補足) 料理を試作するときには、大学が指定したデジタルクッキングスケールで、計測をし、作成をすること。

◆参考書

書 名	著 者	発行所
日本人の食事摂取基準(2025 版)	厚生労働省「日本人の食事摂取基準(2025 版)策定検討会報告書	第一出版

◆関連科目

調理学実習Ⅰ・Ⅱ、大量調理基礎実習、給食経営管理論、給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	学習に取り組む姿勢・意欲	10
レポート	10	実技(発表・コミュニケーション)	30

(補足) 学習に取り組む姿勢・意欲 10%については、授業内の発言、オフィスアワーを利用した質問、提出物の期限を適切に守ることで評価をする。実技 30%は、教員及び学生の評価表を用いて点数化し評価する。レポート 10%は、誤字・脱字がなく、個人の主張が論理的かつ明確に記述されていることを確認し、15 回目終了後に提出したレポートを 10 点満点として評価する。

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

課題は、内容をチェックし、授業内で総評を述べる。

◆受講上の注意事項及び助言

授業に必要な資料(食品成分表、日本人の食事摂取基準、料理の本など)は各自で用意しておくこと。

◆オフィスアワー

受付時間： 授業日 16:30~18:00

受付場所： 給食経営管理研究室

上記で対応できない場合： 上記で対応できない場合は研究室前のメッセージボードを活用し、時間と場所を打ち合わせする、または、電子メールでも対応(kazami-k@tsc-05.ac.jp)する。

教育制度論 (2 単位) (管理栄養学科)

開講時期 2 年・前期
担当者氏名 嶺井正也

◆授業概要

自らが受けてきた学校教育の過程を振り返りながら、公教育として法的に整備されている学校教育の意義や原理、制度を把握し、その役割と課題を考える。新たな課題となっている夜間中学やインクルーシブ教育システムの意義も把握する。

そして、それらを支える教育行財政の意義と仕組み、学校や児童生徒にかかわる事件・事故・災害への対応や危機管理（新型コロナウイルス禍対応を含む）、そしてこれらとも深くかかわる学校と地域の協働関係づくりも取り上げることとする。板書やプリントに加え、DVD 等のメディア利用、グループディスカッション、プレゼンテーションを取り入れる。また中間時点で小テストを行う。

◆到達目標

1. 日本の公教育制度の定義・原理・構造や公教育制度を規定する教育関係法規を理解し、説明できる。
2. 公教育制度を支える教育行財政の理念と仕組み、そこで進められている制度改革を理解し、説明できる。
3. 学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえ、新型コロナウイルス禍を含む危機管理など含む学校安全活動の必要性と具体的取り組みを説明できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	公教育制度とは	この科目の流れを確認した後、公教育という日頃聞きなれない用語の概略を私教育と対比しながらつかむ。	予習 あらかじめシラバスと『教職六法』の事項解説を読み、大まかに公教育について把握しておく（120 分）。 復習 授業で示された定義とその性格について確認すること（120 分）。
2	公教育制度を規定する法令	学校教育制度を核とする公教育制度は憲法、教育基本法、学校教育法などの多数の国内法だけでなく国際法でも規定されていることを理解する。	予習 『教職六法』にある憲法、教育基本法、学校教育法を読み、概略を理解しておく（120 分）。 復習 授業中でとりあげた国際法を確認する（120 分）。
3	公教育制度の原理と構造	「国民の教育を受ける権利」や「教育への権利」を教育の機会均等原則や義務教育の無償性で保障する公教育制度の構造を学校教育を中心に把握する。	予習 改めて憲法第 26 条や国際人権規約（社会権）第 13 条、教育基本法全文を読んでおく（120 分）。 復習 とくに学校教育制度にかかわる学校教育法、同施行規則が何を規定しているかを整理しておく（120 分）。
4	生涯学習社会と公教育制度	生涯学習の歴史的由来を踏まえつつ教育基本法第三条の生涯学習に関する規定を理解し、家庭教育制度—学校教育制度—社会教育制度といった構造を理解する。	予習 「生涯学習」とは何かについて調べ、基本的内容をつかんでおく（120 分）。 復習 家庭教育制度—学校教育制度—社会教育制度という生涯学習の構造を確認し、具体的事例を挙げられるようにしておく（120 分）。
5	学校教育制度の構造	教育基本法第六条に規定する「法律に定める学校」、学校教育法上の学校などを構造的に把握する。	予習 学校教育法第一条にある「一条校」を調べておく（60 分）。 復習 幼保連携型認定こども園、専修学校、各種学校と一条校との違いを確認する（180 分）。
6	学校教育制度の歴史	日本の近代公教育制度としての学校教育制度を大きく第二次世界大戦前後に区分けして考察する。	予習 『教職六法』（928 頁～932 頁）の変遷図をみて概略をつかんでおく（120 分）。 復習 特に戦後直後と現在とでは学校教育制度がかなり変わっていることを理解する（120 分）。
7	義務教育制度の課題	保護者に課せられている就学義務を中心とする日本の義務教育制度の課題を考察する。	予習 日本の義務教育制度は多くの欧米諸国とは違う就学義務について調べておく（120 分）。 復習 外国籍児童生徒の義務教育をどう考えるかという近年の課題について自分の意見をまとめておく（120 分）。
8	これまでの復習兼小テスト、プレゼンテーション準備	小テストによる第 7 回までの復習と第 14 回目の授業でのプレゼンテーション準備（テーマと班別け）	予習 これまでの授業を振り返る（180 分）。 復習 プレゼンテーション向けの準備をする（60 分）。
9	前時の小テストの解説とインクルーシブ教育システム・特別支援教育制度	小テスト結果を踏まえた復習のあと、障害者権利条約第 24 条に規定するインクルーシブ教育システムにおける特別支援教育制度を理解する。	予習 そもそもインクルーシブ教育とは何かを調べておく（120 分）。 復習 年々特別支援教育をうける児童生徒数が増加している状況を考える（120 分）。
10	不登校児童生徒支援制度	教育支援センター（適応指導教室）、特別教育課程編成校、夜間中学、フリースクールなど不登校児童生徒の学習を支える制度を叶える。	予習 「義務教育段階の普通教育に相当する教育機会の確保等に関する法律」について調べておく（120 分）。 復習 フリースクールの現状と課題を確認しておく（120 分）。

11	教育行財政の仕組みと機能	中央の文部科学省、地方の長・教育委員会のしくみと権限を把握する。	予習 文部科学省設置法や地方教育行政法を読み、内容を確認しておく (120 分) 復習 教科省の検定・採用制度や教職員人事制度義務教育の無償性について整理する (120 分)。
12	学校と地域の連携、学校地域協働活動	教育基本法第十三条の趣旨を踏まえた学校と地域の連携協力や学校地域協働活動の基本と具体を考察する。	予習 教育基本法第十三条のよみ、その意義を確認しておく (120 分)。 復習 各地における学校と地域の連携や協働に関わる事例を集めてみる (120 分)。
13	学校安全と危機管理	文部科学省の「第三次学校安全計画」の基本的理解に努め、学校安全についての教員の自覚を深める。	予習 学校保健安全法のなかで、学校安全にかかわる規定について確認しておく (60 分) 復習 大災害時における児童生徒や教職員の安全確保だけでなく地域の防災拠点としての学校のあり方を確認する (120 分)。
14	教育制度に関するテーマについてのプレゼンテーション	プレゼンテーションと質疑を行う。	予習 プレゼンテーション準備 (180 分) 復習 質疑から明らかになった課題をフォローする (60 分)。
15	公教育制度改革の行方	令和 3 年 1 月の中央教育審議会答申で示され、また、現在もそれを担う教員養成・採用・研修の審議がすすめられている「令和の日本型学校教育」を理解する。	予習 中教審答申を読んで日本の公教育制度改革の概要をつかむ (120 分)。 復習 これまでの授業全体を振り返る (120 分)。

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
『共に創り出す公教育へ』	嶺井正也・その他	八千代出版株式会社

◆参考書

書 名	著 者	発行所
『教職六法』2025 年度版	高見茂 他	協同出版株式会社
『文部科学白書』最新版	文部科学省	

◆関連科目

「教職概論」、「教育原論」

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	60	小テスト	20
レポート		実技 (発表・コミュニケーション)	10
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足)「学習に取り組む姿勢・意欲」は主として授業最後を書くリアクション・ペーパーの内容で確認する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

- ①小テストについては次の時間に採点結果の通知と解説を行う。
- ②リアクション・ペーパーについては、次の時間にコメントする。

◆受講上の注意事項及び助言

基本的に授業中のスマートフォン使用は認めないが、調べる必要がある場合にはその都度使用について指示する。

◆オフィスアワー (新学期開始時に学務課からの掲示を確認すること)

受付時間：水・木・金曜日昼休み

受付場所：4 号館 5 階教育学第 3 研究室

上記で対応できない場合：メール (minei-m@tsc-05.ac.jp) で対応

教育心理学

(2単位) (管理栄養学科)

開講時期 2年・前期
担当者氏名 嶺井 正也

◆授業概要

教育心理学とは、教育の効果を高めるのに役立つような心理学的知見と心理的技法を提供しようとする学問である。本講義では、幼児、児童、生徒（障害のある幼児、児童、生徒を含む）の心身の発達過程や学習過程の特長を理解し、児童、生徒の学習活動を支える教育活動の基礎となる考え方を理解し、基本的スキルを身につけることを目的とする。板書やプリントに加え、ICTの利活用、グループディスカッション、プレゼンテーションを取り入れる。また、小テストを中間時点で実施する。

◆到達目標

1. 幼児、児童、生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達や学習に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を具体的に理解し、説明でき、実践できる。
2. 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解し、主体的学習を支える動機付け・集団づくり・学習評価の在り方を発達の特徴と関連付けて具体的に理解し、説明でき、現場で実践できる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	教育心理学・発達心理学・学習心理学概要	授業のガイダンス及び教育心理学と他の心理学との関係の概要を理解する	予習 シラバスを熟読しておく（60分） 復習 諸心理学の基本と特徴を整理しておく（180分）
2	教育心理学の歴史と現状	行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、認知主義心理学など教育心理学の基礎となる心理学を理解する	予習 第1回授業で配布した資料を読んでおく（120分） 復習 各種心理学の特徴を整理する（120分）
3	教育心理学的発達論	主としてピアジェとヴィゴツキー等の考え方をふまえ、発達と教育、遺伝と環境の関係を考える	予習 教科書第1章第2、3節を読んでおく（120分） 復習 とくに「発達の最近接領域」の意義を復習する（120分）
4	発達の段階論 1	フロイトとエリクソンの発達段階論の特徴を、グループディスカッションを通して理解する	予習 事前配付のプリントを読んでおく（120分） 復習 グループディスカッションをまとめる（120分）
5	発達の段階論 2	コールバーグとマズローの発達段階論をグループディスカッションにより把握する	予習 事前配付のプリントを読んでおく（120分） 復習 ディスカッションの内容をまとめる（120分）
6	教育心理学の学習論	学習と教育との間には密接な関係があることが「学習の適時性」「忘却曲線」など学習理論を踏まえた教育の在り方を理解する	予習 教科書第3章を読んでおく（120分） 復習 基本的な概念の理解を深める（120分）
7	知能と性格：検査法を含む	学習指導や生徒指導などの基礎となる子どもたちの現状理解に欠かせない知能と性格の把握について理解する	予習 教科書第6、7章を読んでおく（120分） 復習 とくに性格検査法を整理しておく（120分）
8	小テスト	これまでの学びの振りかえる	予習 これまでの学びを復習しておく（180分） 復習 小テストで確認した学びの課題を整理する（60分）
9	メタ認知と学習観	今日の学校教育において注目されている子どもたちメタ認知とそれを踏まえた学習あり方をグループ学習により理解する。	予習 事前配付のプリントを読んでおく（120分） 復習 グループ学習の内容をまとめる（120分）
10	学習方略論	今日の教育心理学で重視されている「自己調整学習」の根底をなす学習方略論を学ぶ。	予習 教科書第5章第2節を読んでおく（120分） 復習 自己制御学習のポイントを整理する（120分）
11	学力と評価	「学力」とは何かを理解したうえで、学習指導要領に即した評価を行うための基本をつかむ。	予習 教科書第7章を読んでおく（120分） 復習 学習の評価規準を整理してまとめておく（120分）
12	生徒指導の教育心理学	発達の支持的生徒指導とそれを踏まえた各種の問題行動等への指導が求められる生徒指導の心理学的基礎を学ぶ	予習 事前配付のプリントを読んでおく（120分） 復習 自分なりのアンガーマネジメント方法を考えてみる。（120分）
13	カウンセリング・マインド論と防衛機制論	教師のカウンセリング・マインドを持ちつつ子どもたちの防衛機制意識に即した生徒指導の基礎を学びながら実際の場面を想定し、グループで学び合う。	予習 教科書第8章第8節と事前配付のプリントを読んでおく（120分） 復習 カウンセリング・マインドがいかに重要であるかについての理解を深める（120分）

14	ソーシャル・エモーショナル・ラーニング	現在の日本の学校教育で取り組み始められている他者と自己との関係を理解し、調整する SEL の基礎を学ぶ。	予習 教科書第8章事第2.3節を読んでおく (120分)
			復習 SEL の意義を振り返り、まとめておく (120分)
15	全体の振り返り	到達目標が達成されているかを確認する。	予習 教科書の該当箇所、これまで配付したプリントに目をとおしておく (180分)
			復習 振り返りの授業をまとめ、総括をおこなう (60分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
『基礎企保シリーズ⑥ 教育心理学』	原田恵理子・福田由紀・森山賢一	大学教育出版

◆参考書

書 名	著 者	発行所
『生徒指導提要 (改訂版)』	文部科学省	
『共に創り出す公教育へ』	嶺井正也・他	八千代出版株式会社

◆関連科目

「教育原論」、「生徒指導の理論と方法」、「教育相談の理論と方法」、「栄養教育実習」

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	60	小テスト	20
レポート		実技 (発表・コミュニケーション)	10
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足)「学習に取り組む姿勢・意欲」は主として授業最後を書くリアクション・ペーパーの内容で確認する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

- ①小テストについては次の時間に採点結果の通知と解説を行う。
- ②リアクション・ペーパーについては、次の時間にコメントする。

◆受講上の注意事項及び助言

基本的に授業中のスマートフォン使用は認めないが、調べる必要がある場合にはその都度使用について指示する。

◆オフィスアワー (新学期開始時に学務課からの掲示を確認すること)

受付時間：水・木・金曜日昼休み

受付場所：4号館5階教育学第3研究室

上記で対応できない場合：メール (minei-m@tsc-05.ac.jp) での対応

教育方法論

(2単位) (管理栄養学科)

開講時期 2年・前期
担当者氏名 三尾忠男

◆授業概要

教師という専門職には、自己の教育技術や方法を常に見つめ直し、同僚などとの研鑽に取り組む姿勢が求められる。その際、感覚や経験だけに依存せず、教師や授業を対象とする工学的なアプローチに基づく研究方法が必要である。この授業では、基本的な教育技術である“板書”に加えて、ICTの活用、授業の設計・実施・分析・評価・改善の方法、初任や中堅教師の教育方法にかかわる課題など、教師が学校現場で成長していくために必要となる内容を取り扱う。

また、この授業そのものを授業や教育の方法を研究する“場”と考え、各種の教授メディアや技術の利用を受講者に体験してもらう。具体的には、PCやDVD等による資料提示、ビデオカメラ等による授業記録、授業評価、Web等による学習を通して、効果や特徴を体感してもらうとともに、それらを授業研究の対象として捉え、受講者各自が教授法や授業評価の観点を養うこともねらいとする。

◆到達目標

1. 授業設計と実施、評価にかかわる基礎的な知識と技能を教育実習に関連づけることができる。
2. ICTを活用した授業や児童の学習に関する知識や教材について基礎的な知識を用いて、具体的に計画できる。
3. 授業力の自己研鑽に必要な知識と方法について理解し、具体的に計画が立てることができる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	教育方法と教育工学	教育の方法を科学的に見る視点を概念的に学ぶ。	予習 良い授業とは、各自考えておく。(100分) 復習 工学的アプローチ特徴を整理する。(100分)
2	教授学習過程のモデル化	教授学習における3方向コミュニケーションをモデル、データ、パズル言語ゲームに学ぶ。	予習 教師と子どもの間の対話を具体的に思い出しておく。(100分) 復習 パズル伝言ゲームの考察をする。これは、小レポートとしてまとめて提出する。(240分)
3	教育実習生にみる教育方法の改善(授業の導入、発問・指名・KR)	授業導入、発問・KRについて、教育実習生の初回、研究授業の変容から学ぶ。	予習 発問の意義について調べておく。(60分) 復習 子どもの回答に対するKRの重要性をパズル伝言ゲームの考察で確認する。(120分)
4	教育実習生にみる教育方法の改善(板書、教材利用、机間指導)	板書、教材利用、机間指導についてその理論と教育実習生の初回、研究授業の変容から学ぶ。	予習 板書についての配付資料を読む。(60分) 復習 授業技術の自己研鑽方法を考える。これは、小レポートにまとめて提出する。(180分)
5	授業技術(板書、カード等の比較)	板書、カードのそれぞれの特徴と必要なスキルを映像と演習で学ぶ。また、教育実習生に必要な資質・技能についてグループで議論する。	予習 板書等の使い方について各自が受けた授業を思い出し、まとめる。(90分) 復習 各自、板書練習をして自身の現状を確認する。(120分)
6	授業技術(電子黒板、ICT活用、アクティブ・ラーニング)	授業における電子黒板、タブレット端末活用について実践映像と「経験の円錐」とアクティブ・ラーニングの意義と期待される効果について考察する。	予習 日常の学びでICTの効果について各自、まとめる。(120分) 復習 ICT活用とアクティブ・ラーニングの功罪について各自、考察する。(120分)
7	目標分析、プログラム学習	授業の設計段階で求められる能力、目標設定、プログラム学習について学ぶ。	予習 授業における目標について評価基準との関連を調べてくる。(120分) 復習 目標行動を実際に作成し、理解を深める。(120分)
8	授業設計演習	各自が作成した授業設計シートを元に、マイクロ・レッスンを実施する。	予習 授業設計シートを完成させる。(240分) 復習 マイクロ・レッスンを振り返り、改善して各自、実施する。(120分)
9	学習評価(診断的、形成的、総括的)、S-P表の活用	学習評価の3段階、S-P表、ルーブリック評価について学ぶ。	予習 各自が体験した学習評価を簡潔にまとめる。(60分) 復習 授業設計シートにルーブリック評価を追記する。(180分)
10	授業研究の意義と方法(授業記録)	授業を授業者自身が研究するための授業記録の各種方法とその意義について学ぶ	予習 授業を記録する意味について考える。(60分) 復習 音声、写真、動画の相違点について考察する。(90分)
11	授業研究の意義と方法(授業分析)	授業を授業者自身が研究するための授業分析の各種方法とその意義について学ぶ	予習 授業の分析について各自調べておく。(90分) 復習 授業を研究する意義について考察する。(120分)

12	教員研修、学習組織と学級経営	教員研修の制度等について理解する。「学級」の授業における意味について学ぶ。	予習 教師の職能育成について調べておく。(120分) 復習 授業にとって学級の重要性を考察する。(60分)
13	初任・中堅教員の教育方法にかかわる課題	教師の初任・中堅それぞれの段階における授業技術の課題について学ぶ。	予習 授業力の段階的発達について考える。(90分) 復習 授業力と OJT の役割について考察する。(90分)
14	学習技能、学習論と教育方法	学習技能と学習効果、新しい学習論と教育方法について学ぶ。マイクロ・レッスンを実施する。	予習 自身の学習技能を列挙してくる。マイクロ・レッスンの準備をしてくる。(180分) 復習 「食育」の学習技能を作る。(90分) また、マイクロ・レッスンの結果を踏まえて、授業設計を改定したものを小レポートして提出する。(120分)
15	授業評価、総括	本授業14週を振り返り、各種授業方法と満足度との関連について考察する。	予習 満足度、理解度を元にして、本講義全体を振り返ってくる。(120分) 復習 理論と実践の往還の効果について考察する。(120分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
小学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省	小学校学習指導要領解説 総則編

◆参考書

書 名	著 者	発行所
食に関する指導の手引	文部科学省	東山書房
視聴覚メディアと教育方法 Ver.2	井上 智義	北大路書房
プロの板書	釧持 勉	教育出版

◆関連科目

「教育心理学」

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	20	小テスト	
レポート	15	実技 (発表・コミュニケーション)	15
学習に取り組む姿勢・意欲	50		

(補足)

- ・学習の状況と取り組み：毎回、小課題や授業評価コメント等により確認する。(50%)
 - ・レポート (3 件)、及び、演習課題 (1 件)。(15%)
- 1 つでも未提出の場合には失格。
小レポート等の提出に際して、クラス内における相互評価等を行う。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

レポートと課題について、授業内で総評を述べる

◆受講上の注意事項及び助言

授業プリントは、各自、綴じるなど整理しておくこと。また、グループ作業などで積極的な参加を期待します。

◆オフィスアワー

受付時間：授業後の休み時間

受付場所：授業教室

上記で対応できない場合：電子メール tadaomio@waseda.jp にて

学校ボランティア (2単位) (管理栄養学科)

開講時期 2・3年・前期・後期

担当者氏名 有村久春、田中広美、嶺井正也

◆授業概要

本講義では、学校ボランティアの意義や内容について学校教育の実際に触れて学ぶことを基本とする。その際、葛飾区内の小学校において、2年次の9月と2月の1週間ずつ計2週間のボランティア体験を行う。

その主な内容は、①事前学習としてボランティアの意義や内容を学ぶ、配置校への事前訪問（あいさつ、校内参観、給食時間の参観など）、②ボランティアの実際体験（配置学校の計画による。例：学級担任・教科指導の補助、給食時間の補助、放課後の学習相談活動、放課後遊びサポート、学校行事の補助、部活動の補助、障害のある子供の学習・学校生活への支援など）、③事後学習としてまとめのレポート作成・提出、配置校への礼状（あいさつ）などである。また、まとめとして報告発表会も予定する。

◆到達目標

1. 学校でのボランティア活動を通して、栄養教諭の立場から学校教育の実際とその在り方を実践的に学ぶことができる。
2. 学生自らが自発的に学校教育に関する課題を見出し、具体的なボランティア体験を通して实际的・体験的に学修することができる。
3. 4年次に履修する教育実習に向けて、教職への自己の適性を知る機会とすることができる。

◆授業計画

* 具体的な学修計画は別途作成して、授業時に配布する。

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	事前学習① 学校ボランティアの意義	学校ボランティアの意義・内容の理解、学習への意欲など	予習 シラバスを読んでおく（60分）
			復習 学校ボランティアの意義・内容を理解する。ノートにまとめる。（30分）
2	事前学習② 配置校の理解	葛飾区立の小学校の情報（HP）をもとに配置校の教育状況を知る	予習 HP等で配置校の情報を得る（60分）
			復習 配置校の理解を深め記録する（90分）
3	事前学習③ 活動内容の事前準備	事前訪問、あいさつ、ボランティア活動の内容理解	予習 事前訪問の心構えをつくる（60分）
			復習 配置校の状況を知りまとめる（60分）
4	ボランティアの実際①	配置校の計画によるボランティア活動（担任の補助、給食の援助など）	予習 持ち物等の準備をする（90分）
			復習 活動内容をまとめる（60分）
5	ボランティアの実際②	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)
6	ボランティアの実際③	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)
7	ボランティアの実際④	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)
8	9月の活動体験のまとめ	ボランティア学習のレポート作成、配置校への礼状など	予習 活動内容の資料整理をする（60分）
			復習 レポート内容の確認と記録（60分）
9	ボランティアの実際⑤	配置校の計画によるボランティア活動（担任の補助、給食の援助など）	予習 持ち物等の準備をする（60分）
			復習 活動内容をノートにまとめる（90分）
10	ボランティアの実際⑥	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)
11	ボランティアの実際⑦	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)
12	ボランティアの実際⑧	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)

13	2月の活動体験のまとめ	ボランティア学習のレポート作成、 配置校への礼状など	予習 活動内容の資料整理をする (90分)
			復習 レポート内容の確認・記録 (60分)
14	事後学習① まとめのレポート	まとめのレポート作成、報告の準備	予習 活動内容の全体を振り返る (90分)
			復習 報告内容の確認・記録 (60分)
15	事後学習② 報告会	学校ボランティアの体験と成果を学 び合う	予習 報告内容の整理と準備をする (60分)
			復習 全体の成果の自己確認・整理 (90分)

＊ 9月・2月のボランティア実習日 (計2週間)

第1回 → 9.16 (火) ～9.22 (月) 5日間

第2回 → 2.24 (火) ～3.2 (月) 5日間

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
特に指定しない ＊随時配布資料を用意する		

◆参考書

書 名	著 者	発行所

必要な資料を随時配布する。

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	
レポート	30%	実技 (発表・コミュニケーション)	40%
学習に取り組む姿勢・意欲	30%		

(補足) ＊学習に取り組む姿勢・意欲については、ボランティア活動への実際およびレポート作成、プレゼンなどにどのように取り組んだかを評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

- ・あいさつ文やレポート内容を点検し、個々の学生に適したアドバイスを文字化して返却する。
- ・レポート等をコピーし、受講学生全員に配布する。学びの共同化を図る。
- ・課題レポートを授業の事前に配布し、予習内容として活用する。また、発表会に活用する。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・積極的に学校ボランティアの学習に参画し、疑問点や質問事項を提案すること。
- ・必要な課題レポートに意欲的に取り組むこと。
- ・自ら学修課題を解決するように努め、演習やグループでの学びに取り組むこと。
- ・配置校の指示を積極的に理解し、ボランティア体験を日々の学修に生かすこと。

◆オフィスアワー

- ・受付時間： 原則として、月曜日、水曜日、金曜日の昼休み (12:10～12:50)
- ・受付場所： 4号館：教職課程センター、担当教員の教育学研究室
- ＊ 上記で対応できない場合： 研究室入口の伝言板に用件をメモすること。